

かすがらいふ



はじめに

受験生のみなさん！春日エリアへようこそ！
かすがらいふ編集委員会委員長の皆川達也です。

情報メディア創成学類や知識情報・図書館学類ってどんなところなの？という
多くの興味と期待を胸に、今日、この冊子を手にとられているかと思います。
本誌「かすがらいふ」はそんな皆さんに春日エリアでの生活を紹介するために毎
年制作されている情報誌です。
講義内容の紹介や、合格体験記、生活体験記など、春日エリアでの生活に関する
様々な内容が掲載されています。
みなさんに楽しんでいただける内容となっていますので、ぜひご一読ください。
本誌を通して、春日エリアでの生活（かすがらいふ）を少しでも感じていただい
たら幸いです。

来年の春、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

2015 年度かすがらいふ編集委員会
委員長

目次

1. 学類紹介	p.4
知識情報・図書館学類	p.4
情報メディア創成学類	p.6
2. 授業紹介	p.8
全学共通科目	p.8
専門科目	p.14
3. 専攻紹介	p.18
4. ゼミ紹介	p.21
5. 合格体験記	p.23
知識情報・図書館学類	p.24
情報メディア創成学類	p.36
6. 生活体験記	p.48
学生宿舍	p.49
アパート	p.52
自宅通学	p.55
7. サークル	p.57
8. アルバイト	p.58
9. 筑波大学の一年間	p.59
10. 学費・宿舍・奨学金	p.60
11. 筑波大学の施設	p.62
12. 春日エリアの施設	p.64
13. 筑波大学附属図書館	p.66
14. 用語集	p.67

1. 学類紹介

知識情報・図書館学類 学類長 長谷川 秀彦

大学とはどういうところでしょう？学問をするところというのは、正しい理解ですが、自宅でひとり専門書を読みふけて学問をすることはできないのでしょうか？インターネットを活用すれば、自宅に居ながら世界とコミュニケーションすることができます。大学では、体育もあれば語学もある、何でやらなければいけないんだろうという科目も必ず付いてきます。聞いていて面白い先生の科目もあれば、内容がちんぷんかんぷんで課題がきつい科目もあります。わざわざ好き好んで、嫌いなことにまで時間を使うのはどうしてでしょう？高校を卒業する頃には、みなさんの知識は一人前になっていて、大学に行かなくても学問をする準備は整っているはずです。安くはない授業料を払って大学に行くのはなぜでしょう。少し、考えてみてください。

大学教員としては、「大学でしか学べないことがある」と声を大にして言いたい。確かにひとりで学問することも可能でしょう。しかし、理解したこと、考えたことを誰かに話して確認したり、間違いを正したりする機会が必要です。メールやチャットでも可能かもしれませんが、やはり場を共有したりリアルな対話に勝るものではありません。大学というところは、似通った興味や方向性を持った人の集まりで、そこでは独学よりも効率的に学問を修めることができます。ただし、興味や方向性は細かく分化しているので、自分に合った場を探し求める必要があります。効率的であるためには、あとから必要になるであろう関連分野の知識なり、できれば避けたいと思うようなことも（本人が気付かない）将来のロスを避けるためにセットとして学ばされます。大学では、好きなことが学べると同時に、（おそらく自分には）興味の薄いことも学ばされます。対話を通じて学ぶことが大きなウェイトを占める以上、そこにいる先住民（教員や先輩）とはうまくやっていけないと困ります。また、環境だって大事です。治安の悪いところではないか、自宅から無理なく通学できるか、住みやすい街なのか、などなど。

高校までとは違い、大学のメニューは無限です。選択肢が多すぎて、どうしようか迷ってしまうのは当然のことです。大いに迷ってください。そして、最終的には自分で決断してください。条件をいろいろと吟味したうえで「自分で決断する」のは非常に重要なことです。人のお勧めに従うのも OK ですが、決断はあくまでも自分です。そのくらいの覚悟は必要です。ここでの選択によって、この後の人生も変わってきます。もちろん、やり直しはいくらでもできますが、過ぎ去った時間は取り戻せないのです、ロスは少ないほうがよいでしょう。

さて、最もふさわしいところを選ぶには下調べが必要です。ガイドブックで調べたり、インターネットで調べたり、年長者の意見を聞いたり、いろいろな調べ方があるでしょう。しかし、フレッシュな情報を得るには、そこへ行ってみるのが一番です。筑波大学は開かれた大学で、塀もなければ、門もなく（春日エリアには門がありますが、門扉はありません！）、構内はいつでも自由に歩き回れます。しかし、一般の大学で、勝手に入り込んでうろうろしていれば怪しまれます。大学には、貴重なものもあれば、危険を伴うものもあるので、いつでも誰でも入り込めるわけではありません。そうすると、大学を堂々と歩き回る機会は、学園祭か、大学説明会ぐらいでしょう。

今日は大学説明会、大事なことは自分の五感で大学を感じることでしょう。4年間という日時と多額の学費を払うことになるかもしれないので、自信を持って選択できるよう情報収集に励む必要があります。せっかくここまで来たのですから、自分から積極的に質問してみましょう。できれば配られる資料に目を通して、深い質問ができることを期待します。とはいえ、ドッサリ資料が配られて、短時間であれこれを見ないといけないので、なかなか難しいとは思いますが。度胸試しのつまらない質問でもかまいません。ぜひとも、学生なり、教員なりに話しかけてください。大学で学問をするには、コミュニケーションが重要です！

「かすがらいふ」は、丁寧すぎるくらいの記述で書かれた「学ぶこと」と「生活すること」のガイドです。すべてがこのとおりとはいかないでしょうけど、「こんなこと学びたい」、「こんな生活したい」というチョイスの参考にはなることでしょう。知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類、筑波大学春日エリアについての興味が深まってくださればそれは嬉しいことですが、そうでなくともわれわれがここで何をしているかを知って頂くことは大いなる幸せです。

大学時代には、大学という場でしか得られない体験があります。大学時代の経験、友人は一生の財産になるはずです。たった数時間の大学説明会でもそれなりの経験ができるはずです。どうか、有意義な時間をお過ごしください。

情報メディア創成学類 学類長 平賀 譲

「情報メディア創成学類って何ですか?」、「どういう勉強をするのですか?」、「卒業したら何になれますか?」……よく聞かれる質問です。受験志望者だけでなく、入学した学生からも聞かれたりします。これに対する（かしこまった）答えは、学類のパンフレットや Web ページに書いてあります。短く縮めてしまえば、「これからのネットワーク情報社会を発展させるために必要な基盤的な技術、とりわけ多種多様な情報内容を扱うコンテンツテクノロジーや、それを提供・伝達するためのネットワークメディアについて学び、それを生かした専門的技術者や研究者を目指す学類」です。どうもよくわからない? そうかもしれません。納得してもらうのはなかなか難しそうです。

なぜわかりづらいか? 理由はいろいろありそうです。その1つは「どれだけ見えているか」。人は結局、自分の知っていること、興味を持つことからしか物事を理解できません。例えば Web ページを見ると、普通のユーザなら知りたい内容、つまり「コンテンツ」に目が向きます。見つけたいことは検索サイトで探します。これらがどう作られ、どのような仕組みで動いているのか、どこをどう伝わってくるのか、考えたりはしません。ましてどれだけの人たちが運用を担っているのか、どれだけの研究や技術がつぎ込まれているかは意識さえされないでしょう。表示されるコンテンツは文字、図形、写真や動画、音など様々な形態を取り、それらが複雑に組み合わせられています。検索が役にたつには膨大な情報を集め、そこから有益な情報を取り出し、提供する仕組みが必要です。そもそもそういった情報が地球規模で瞬時にやりとりできるためには、それを支える巨大ネットワーク（いわゆるインターネット）が休みなく動き続けなければなりません。そういった背景をどれだけ知っているか、関心を持つかで、わかり方の度合いが違ってきます。

上は web ページを例にあげましたが、いわゆるコンテンツ産業（アニメ、ゲーム等々）でも同じです。表だった華やかな面の背景には、膨大なスタッフ、技術やツール、それにつながる基礎的な研究があります。別にコンテンツ産業といわず、どんな産業や社会の活動でも同じことです。

情報メディア創成学類に入学したなら、まずそういった背景、とりわけコンテンツやネットワークに関わる面に意識を向けてください。それを支える様々な仕組みや技術、理論や考え方について、学習し、理解してください。それを踏まえて、自分が関心を持った分野について、知識や技能を生かした職業に進むのもよし、自分自身で先端の研究や技術開発を押し進めるのもよしです。その時点で改めて、「情報メディア創成学類って何（だったの）?」と自問してみるといいでしょう。

始めに戻って、わかってもらいにくいもう1つの理由は「我々にもわからないから」です。無責任だって? まあそうも言えるかもしれませんが、ちょっと違う話です。現在のネットワーク社会は、新しい業種やサービスが次々と生まれてくる渦中にあります。その多くは実を結ぶことなく消えていきますが、真に力のあるものは社会に定着し、さらには社会そのものを変革していくインパクトがあります。今は存在しない新しいものを作り出す斬新なアイデアやそれを実現していく努力は、あなた方自身が進めていくものです。我々はその手助けとなる知識や技術、さらには考え方や研究方法を教えることはできますが、その結果何が生まれてくるかは我々にも「わかりません」。

新しいものを作り出すというのは大変なことです。特に今の世界は昔とは比べ物にならないほど個人の力が大きく発揮できる一方、すべてが競争にさらされる厳しい社会になっています。そこで伍していく力を養うには、授業を通じて学べる部分もある一方、それだけでは決して十分ではありません。より専門的な知識や能力を身に付けるために大学院進学は是非目指してほしいところです。また教員や学生仲間、さらには様々な分野の人たちとの交流を通じて学べることも極めて多くあります。とりわけ、同じ世代で同じ意識をもった学生仲間と切磋琢磨していくことは有益です。実際、本学類の学生の中には在学中から学会発表、コンテストや公募事業での入賞、様々な社会的活動、ベンチャービジネスの起業など、多様な活躍をしている人が数多くいます。

その点から言うと、よくある質問のもう1つのパターン:「XXX になれますか?」について (XXX にはゲームクリエイターとかアナウンサーとか様々なものが入ります)。これ、答えように困る質問です。そもそも職業とか専門とかは「なれる」ものではなく、自分がそれを目指して「なる」ものでしょう。要は大学で学んだ知識・技術・能力をどのように生かしていけるかです。例えば本学類が（アニメ、ゲーム等の）クリエイター養成を目指す学類かと言えば、これは明らかに違います。しかし養った力を生かしてそういった方面に進むのは自由です。自分にとって何が必要かを考え、それを着実に身に付けていき、新しい情報の世界を切り開いていこうというチャレンジ精神旺盛な学生を情報メディア創成学類は歓迎します。

以上、学類の教育や進路といった点から書いてきました。この「かすがらいふ」にはそれだけでなく、入試、サークル、学生生活といった大学生にとっての様々な面についての情報が満載されています。それらも踏まえて、是非筑波大学、さらには情報メディア創成学類への入学を考えてもらえば幸いです。

2. 授業紹介

大学の授業ってどんなもの？

春日の学生はどんなこと勉強するのかな？

そんなあなたの疑問に少しではありますがお答えします！

今回の紹介はあくまで執筆者の受講した講義の印象ですので、参考程度にお願いします。

※以下の文中では知識情報・図書館学類を「知識」、情報メディア創成学類を「メ創」と表記します。

全学類共通科目

共通科目

▼英語

情報学群の3学類（知識情報・図書館学類、情報メディア創成学類、情報科学類）合同で講義があります。4月に行われるプレイスメントテスト（クラス分けテスト／マーク式）でA1～C2の6つのクラスに分かれます。英語がすぐできる人はSクラスなんていうクラスにいきます。どのクラスも予習・復習が大変なものは大変だし、楽しいものは楽しいみたいです。正直、先生と使用する教材次第です（今年は教材に『シャーロック・ホームズ』を使っているクラスもあります）。これは講義を受けてみないと何とも言えないところではあります。

講義は週に3回あり、それぞれ読み書きや聞き取り、会話の学習をします。高校で身に付けた英語の能力が衰えてさえいなければ、どうにかかります…多分。でも思っているより英語力は衰えているものなので、入学試験合格後も少し勉強しておいたほうがいいと思います。特にAC、推薦合格者は、合格してから入学までの間が長いので、勉強しておかないと、苦しみことになるかもしれません。

▼体育

「え、大学って体育あるの？」…あります。

1年生と2年生の必修科目です。学期ごとに種目を選択して受講します。運動が苦手な人でも初心者向けの種目を選べばとても楽しいです。そして筑波の体育ではニュースポーツ、フィットネス・トレーニング、シューティングスポーツなど普段聞きなれないような競技も体験できちゃいます！

運動設備が揃っている所以体育は充実していますよ。

第二外国語

知識は必修、メ創は必須ではないが受講可

▼ドイツ語

ドイツ語は週に2コマあり、一方は文法、もう一方は会話を主に勉強します。文法は教科書を読みながら講義を聞き、練習問題を解いて、と、中学の英語の授業と似たようなものです。辞書がないと解けない問題も多いので、辞書持込み可。会話の方では表現を覚えて、クラスメイトや先生と実際に受け答えをすることを主に行います。試験ではペアの子と指示された内容の対話をしました。学年末にはドイツ語検定もあるそうです。

▼フランス語

フランス語は二つのクラスに分かれています。フランス語の先生は会話中心です。私の受講している先生はフランスのあれこれについて教えてくださる、面白くて素敵な先生なので、講義が楽しいです。授業の雰囲気がいい感じなので、私は講義中リラックスできています（笑）。テストは頑張りましょう。

▼中国語

中国語は文をみて意味はだいたい分かってても、発音が難しいです。春学期の半分くらいは発音練習だけに費やしました。課題は予習で語句と読み方調べ、復習で練習問題がありました。テストは教科書から出題されるので、形式を知ればそこまで難しくありません。最後に、中国語履修者の鬼門、アチーブメントテスト（学習の到達度を確認するテスト）は実施日が近くなると授業で解説を受けますが、こつこつ勉強していないとつらかったです。

▼ロシア語

ロシア語は第二外国語の中で一番人数の少ない言語です。ほかの第二外国語はクラスが分かれていたりするのに比べ、ロシア語は1クラスでも席が余るほどです。そのため先生との距離がとても近い講義で、よく話しかけられます。課題は毎週でなかったりしますが、プリントを読んできたり埋めてきたりする簡単な課題です。テストは講義をちゃんと聞いていれば解ける問題なので、文法さえ覚えてしまえば割合楽です。なにより楽しいので、迷ったらぜひロシア語にしてみませんか？

▼スペイン語

スペイン語は発音の際の規則が多いですがそれに慣れてしまえば発音自体は英語よりも容易です。スペイン語は週に2コマあり、一方で文法を勉強し、もう一方では実際に問題を解いていきます。それぞれ先生が違い、スペイン人の先生もいらっしゃるので本場の発音を知ることができるでしょう。

※この他にもアラビア語、朝鮮語なども受講可。ただし知識では必修科目の単位には含まれません。

総合科目Ⅰ

総合科目Ⅰの対象は新生で、2単位を必修としています。新生が大学に慣れ、自分で大学でのプランを立てられるようにサポートする科目です。通称大学問と呼ばれる「筑波大学特別講義—大学と学問—」など、自由に履修することのできる複数の講義がありますが、ここでは知識やメ創の必修科目であるフレッシュマンセミナーについて紹介します。

▼フレッシュマン・セミナー

通称フレセミ。筑波大学はクラス制度を導入していて、知識は4クラス、メ創は2クラスに分かれており、そのクラスごとにフレセミが行われます。高校のHRのような感じで、クラスメイトと交流して仲良くなったり、担任の先生の話の聞いたりします。先輩や支援室（事務組織）の方の話を聞いたり、中央図書館の見学に行ったりもします。クラスの人たちとは長い付き合いになるので、ぜひここで友達をいっぱい作りましょう！

総合科目Ⅱ

総合科目Ⅱは一、二年次生を主な対象としています。自分の学類以外の講義を受けられるのが筑波大学の特色であり魅力の一つですが、特にこの総合科目Ⅱでは、様々な学類によって開講された100科目以上の中から好きな講義を選んで受講することが出来ます。ただし、学生の広い視野を養うためにABCの3種の科目群の中でAとBからそれぞれ2単位以上、ABC合わせて5単位以上を取る必要があるので注意しましょう。

来年度も同じ講義が同じ内容で開講されるかはまだ分かりませんが、今年度開設された授業の一部を紹介します。詳しくは来年度の総合科目シラバスをご参照ください。

科目群A —物理、数理、生命等に関わる科目で概ね理系分野—

▼マルチメディアの舞台裏

「マルチメディアの舞台裏」は情報学群開設で、テーマ講義ごとに各専攻の教授の講義を聞きリレー方式になっています。主に、マルチメディアを取り巻く環境の基礎的な部分（ビックデータやSQLなど）を学ぶ事ができます。また、先生の中には企業で研究をしていたという方もいらっしゃるのので、就職に向けて企業はどんな人材を必要としているのか、そしてこれから何を学んでいけばいいのかといった話も聞けるかもしれません。

難しい内容もありますが様々な学類の人が受講しているので、誰にでもわかるように教えてもらえます。テストには資料を持ち込むことができるのですが、テストは資料だけだと解答するのが難しいので、配布された資料にメモを取っておくといいでしょう。

▼森林

複数の先生によるオムニバス形式の講義で、森林の役割、病気の広がり方、日本とオーストラリアの森林におけるスキー場の違いや「ロシア人は森林から何を学んでいるか？」まで幅広く教えていただけます。プリントの配布もありますが主にスライドを用いた授業なので、置いていかれないようにするには集中力が必要です。

▼フィールドに学ぶ食と緑Ⅰ～食糧生産と緑資源育成～

一つのテーマにつき、講義と実習を一コマずつ行います。田植え、木の伐採の見学、農業機械の運転・見学、牛のブラッシングとお散歩など、様々な内容の実習を体験することが出来ます。毎回出席し、テストを受けるだけで単位は取ることが出来ますが、テストでいい成績を取りたいなら講義をしっかり聞く必要があるそうです。

科目群 B —精神、文化、社会、歴史等に関わる科目で概ね文系分野—

▼デザインと社会 I

デザインに何ができるのか？ということを中心に、デザインと社会の関わりについて、環境デザイン・建築デザイン・プロダクトデザイン・情報デザインなどの視点から考える授業です。実例のスライドを見せながら、先生がたくさん話します。加えてテストは記述式という一見ハードルの高い授業ですが、毎年受講希望者が定員オーバーする人気授業です。

▼古典に学ぼう—日本・中国編—

文系には癒しの時間。先生方がオムニバス形式で、それぞれ「日本中世の古典」「三国志演義」「古事記と日本書紀」「陶淵明」などの様々な日本と中国に関する古典について語ってくださいます。興味がある人にとっては楽しい話がたくさん聞けて面白いはず。古典が好きな人はぜひ。期末試験あり。

▼知的財産のしくみ（著作権）

その名の通り著作権についての授業で、知識開講の講義です。中学校や高校で習った著作権についてより詳しく学ぶことのできる授業ですが、大学生が触れることの多い学術論文に関する内容が中心になっています。ちなみに受講希望者が定員を超えた場合、知識の人から履修できなくなりますので要注意。

科目群 C —文系と理系が融合した、より広範な主題からなる科目—

▼競馬の世界

この授業では、賭け事ではなく、スポーツ競技としての競馬を学びます。割と多くのレポート課題が出されるようなので、提出を忘れないように注意する必要があるそうですが、東京にある国立競馬場に見学に行き、実際に競馬を見たりトップ騎手の方と握手したりもできます。このような貴重な体験ができるのは筑波大学だけです！！

▼心の実験室 1

6人の先生方によるオムニバス形式の講義で、母と子の絆、心理学と脳科学、心理学や認知工学から見たデザイン、トラウマの消し方などなど、心理学について様々な内容を学ぶことが出来ます。成績評価はテストですが資料の持ち込み可。6人の先生がそれぞれ出題し、その全ての設問に回答する形でした。

▼スポーツを変えた発明

スポーツ界にはすごい「発明」をした先人たちがいた！それらの発明がなかったら現代のスポーツの繁栄は築けなかった！バスケットボールの誕生、高跳びの背面跳び、野球の変化球…他にもラジオ体操の歴史や水分補給の通説の変化などそれぞれの分野の最前線の先生から為になる面白い話が聞けます。成績評価はレポート提出。

総合科目 III



さて、最後に総合科目Ⅲについて説明したいのですが…実はこの総合科目Ⅲ、今年度より開講された科目であることに加え、標準履修年次が三、四年次であるため実体験が紹介できません、ごめんなさい。しかし、この科目は必修科目として1単位を必ず履修しなければならないため、三、四年次生 になった時に忘れずに履修するようにしましょう。ちなみに DEFG の4種の科目群に分かれており、総合科目ⅠとⅡの科目群ABCそれぞれの発展的な内容になっているようです。

情報メディア創成学類の科目

▼情報数学

情報数学では主に、集合・命題についての考えや、その考えをコンピュータに理解させるための方法を学びます。講義は2時限連続で行われ、1時限目に講義、2時限目に演習（教科書の演習問題）と小テストを行います。この科目は高校でやった数学Aの「命題と証明」の発展と思われるものも扱っていますが、大抵は新規に覚えるものばかりです。

▼解析Ⅰ

解析とは、つまるところ微分積分の応用です。微積なんて高校生で終わりだと思っていたあなた、メ創へようこそ！やはり大学の数学、読めない文字や記号がやたらめったら登場します。しかし要は単なる微積です。しっかり定義を確認しながら、使っていく練習をするとよいでしょう。長い定義も段々と覚えて使えるようになります。

▼コンピュータリテラシ コンピュータリテラシ実習

この2つの授業は基本的には同じ授業として扱われ、皆さんもよく知るインターネットの使い方からHTMLによるホームページ制作や、Linuxの操作方法などといった人によってはあまり馴染みのないことまで学びます。コンピュータリテラシでは、コンピュータがどう動くのかなどを理解するために2進数や論理回路などについて知識として学び、コンピュータリテラシ実習では実際に手を動かすことにより実践的な面を学びます。

▼線形代数Ⅰ

線形代数では、主にベクトルや行列についての考えを学びます。講義は2時限連続で、1時限目が講義、2時限目が演習となっています。ベクトルは数学Bで扱うベクトルについての復習が中心ですが、行列では数学Cで扱うものよりも新たに出てきた考えなどを中心に扱うため、数学Cと同じだと思って取り組むと頭が混乱します。

▼教養と科学

メ創に所属している教員や外部の方が、自分の研究を題材にして紹介講演を行います。講演者との質疑やレポートなどによって、学類に関連する技術や研究の動向を学びます。この授業のなかで自分が研究したいことを見つけていくのもよいかもしれません。

▼コンテンツ応用論

社会の第一線で活躍していいらっしゃる方々をお呼びして講演をしていただくオムニバス講義です。ゲームクリエイターや映画監督、プロデューサーやメディアアーティスト、コミュニケーションデザイナーやビジネス産業など、様々な業界から錚々たる講師の方々がいらっしゃいます。質問をしたり自分売り込んだり目標ができたりと、自分を見つめ直すいい機会でもあります。

▼情報メディア概論

情報メディア概論は、情報メディア創成開設の授業に関する基礎的な知識や、情報メディア創成ではどんな研究をしているのかを各研究分野の教授から紹介する、講義形式の授業です。

幅広く基礎知識や研究内容の紹介をしていただけるので、何を研究したいか具体的に決まっていない人も興味のある分野を見つけられるのではないかと思います。大学では、何かやりたいことがないのはとても勿体ないです。講義を通して、いろいろなことに興味・関心を持ちましょう。

テストは各回の講義から出題され、その中から数問選択して解答する形式になっています。講義ではきちんとメモを取っておくことをおすすめします。

▼コンテンツ表現演習

この授業は画像処理について学ぶ「平面表現」と構成力を養う「空間表現」に分かれて行います。

「平面」では、画像処理ソフトを使ってポスターを作ります。線の引き方や写真加工といった基礎的なことから教えてもらえるので、初心者でも全然心配ありません。毎週の課題は楽なものではありませんが、しっかり毎週こなして先生の評価を真摯に受け止めていれば、素人目にも明らかなほど技術が向上します。

「空間」では、チームでのモビール制作を通じて空間デザインを学びます。毎週試作を提出して評価を受けなければならない、多くのチームが授業時間外にも集まって制作を行っています。作業量は非常にシビアですが、そこで得られる団結力や空間デザインに対する造形感覚は絶対に将来の役に立つでしょう。最後には各々の作品を春日の施設内に飾る「もびいる展」を行い、招待状なども自分たちで用意して外部の方に見てもらいます。

なお、二年次に「情報デザインⅠ・Ⅱ」を履修したい場合はコンテンツ表現演習の履修が必要になります。

知識情報・図書館学類の科目

▼情報基礎

パソコンやネットワークといった情報技術の仕組みについて学びます。自分はパソコンだめだから……(/ ω \) という人も大丈夫。先生が基礎からやさしく丁寧に教えてくれます。終始穏やかな授業の雰囲気は、レポートやサークルに忙殺される学生たちの大きな癒しです
(*´ ω `*)

▼情報リテラシ実習

あなたはグループでプレゼンテーションをしたことがありますか？あなたは自分のおすすめの場所などについてパンフレットを作ったことがありますか？この授業はリテラシ、読み書きの能力を向上させるのはもちろん、人前でプレゼンテーションをしたり、自分の作ったパンフレットの魅力を紹介したりします。

▼情報数学

情報技術を扱うために必要な数学を学びます。内容としては、論理と集合やベクトルなど数学A・Bの分野に近いです。毎年、文系理系問わずこの授業に苦戦するといわれています……(/_.)。先生の丁寧かつ、論理的な解説をしっかりと聞きましょう(´・ω・´)そして、テストに向けて助け合いの輪をつくりましょう。

▼図書館概論

図書館について学びます。知識に来る人には図書館に興味を持っている人が多いですが、この授業を受ければ図書館の役割や活動の豊富さに驚くでしょう。先生が世界各地の図書館を紹介してくれるので、きっと新鮮な経験が得られるはずです(・ω・)/

▼知識教育概論

普段私たちが何気なく扱っている知識や情報の本質について学ぶ授業です。「知識のフレーム」や「ドキュメント」など知識情報学、図書館情報学の専門用語が頻出し、その扱う内容ゆえに哲学チックな授業なので、好きな人にはたまらないはず。回を重ねるごとに、この授業の味がくせになってきます。……時々○○概論になるのは内緒(-ω-)

▼統計

統計って言われても何の事だかさっぱり……という人もいるでしょう。でもスタートはみんな同じようなものです。平均、中位数、最頻値というちょっと聞きなれないものから、ある仮説が正しいかどうか検定をしたりします。世の中には嘘つきなデータが転がっています。この授業を通して、あなたの統計データを見る目も変わることでしょう。

▼基礎数学 A

高校数学でⅢCを履修していた人はおなじみ、そうでない人は微分・積分の応用と考えたほうがわかりやすいかもしれません。今まで何気なく扱ってきた関数や無限の概念を理解し、他の関数や微分・積分との関係を考えます。情報数学は論理や集合、ベクトルが中心でしたが、こちらは関数などが中心です。

▼情報基礎実習

パソコンの基本的な使い方と、レポートの書き方について、しっかりと学ぶ授業です。毎週レポートが出されますが、中々にハードです……。提出日前日には多くの学生が実習室で唸っていたりします。しかし、確実に大学でも、社会に出て役立つことなので、サボらずきっちり受けましょう！レポートでA評価が付くと嬉しいですよ！

▼哲学

ミレトスの自然哲学から論理実証主義までを学びます。高校で倫理を選択しているみなさんはより深く学ぶことができますし、そうじゃない人はソクラテスの考え方を理解することから始め、さまざまな思想を見ることができます。先人たちの思想を知り、さらに自分の思想を深めることができるかも。

▼プログラミング演習

「え、プログラミング？」と目を疑って人もいるでしょうが、間違いなくプログラミングです。知識を共有するシステムにはプログラミングが欠かせなくなっています。教室にいるかなりの人数がプログラミング初心者なので安心してください。プログラミングはパソコンとにらめっこしたり、テキストを見ながら自分で考えたりと自分との戦いになることが多いですが、先生や先輩、友だちが協力してくれることもありますのであきらめないで！

3. 専攻紹介

前のページまでは1年次で行われる講義を紹介してきました。

知識には三つの専攻があり、3年次になると、「情報経営・図書館専攻」「知識科学専攻」「知識情報システム専攻」のいずれかに属します。「情報経営・図書館専攻」は社会に、「知識科学専攻」は人間に、「知識情報システム専攻」は情報技術にそれぞれ焦点を当てています。ここではそれぞれの専攻について紹介します。

※知識のみの紹介となります。

知識情報システム専攻

春学期必修である知識情報システム実習では、グループごとに出したアイデアを元にシステムを開発し、プレゼンテーションを行ったり、HTML5を用いたアプリケーションの作成などを行ったりします。その他に専攻で開設している科目には、Webプログラミング、情報サービスシステム、知識資源の分析といった、システムを設計する際の考え方やそれらを構築するための技術、システム内でのデータの扱い方などを学び、習得する科目が中心となっています。

▼知識科学実習

この授業は講義と演習の2本立てで行われます。まず講義でサーバ側プログラミングやクライアント側プログラミングの基本的な事項を学習・理解します。その後、Webの機構を用いて情報提供をするようなプログラムを、演習として実際に作成します。座学では理解しきれないことも、実際に演習をすることで、楽しく考えることができます。演習は全部で3回あり、そのうち2回レポート課題が課されます。テストは論述形式で、様々なWebの機構等の原理や仕組みへの理解が問われます。

▼テクニカルコミュニケーション

この授業は、基本的にシステム構築を行うことが中心になっています。春学期は、前半はグループに分かれデータベースを使うシステムを構築し、後半は個人でHTML5を使ってゲームや予定表などを作成し、最後に発表します。秋学期は「電子図書館」「電子書籍」「Java」の3グループに分かれ、それぞれの課題を進めていきます。プログラミングなどが苦手でも、グループの仲間と助け合って作成するので、とても楽しい授業です。

情報資源経営専攻

この専攻は平成27年度から名前が新しくなりました。以前は「情報経営・図書館専攻」という名前でしたが、学んでいる内容をより分かりやすく伝えるためにこのような名前になりました。学ぶ内容は今までと変わりません。

情報資源経営専攻では、世の中に溢れる「情報」について「社会」という切り口から考えていきます。何も整理されていない膨大な「情報」が目の前にあるだけでは、人々がそれらを満足に活用することはできません。「情報」を体系的に整理・運用（≡経営）した「知識情報」として人々に提供する環境作りが、現代社会では求められています。その実現を目指す人材になるために必要なことを学んでいるのが、この専攻です。情報提供環境の1つとして図書館を捉えているので、もちろん図書館についてもかなり専門的なことまでたくさん学べますが、決して図書館についてだけ勉強しているわけではありません。様々な組織やコミュニティにおいて「知識情報」を保存・管理・提供するためのノウハウやそれらを機能させるための社会的制度、今あるそれらが形成されるまでの歴史的・文化的背景など、本当にいろいろなことが学べます。「図書館をよりよくしていきたい！」という人から、「情報」という角度から教育や文化について考えたい！」という人、「古典籍や漢籍を後世に残していくことについて考えたい！」という人までこの専攻の学生の興味は様々です。

以下はそんな経営専攻開講のおすすめ講義です。

▼情報資源経営実習

3年次に経営専攻全員が履修する科目です。プレゼンテーション形式での論文講読とグループワークを通して、図書館情報学という研究領域の全体像を理解していきます。図書館情報学の領域には多様なテーマがあります。自分が興味のあるテーマについてみんなに共有することで自分自身の理解も深まりますし、同時に他の人の興味のある分野についても聴くことができるので新しい発見もあります。一、二年生で勉強してきたことを踏まえて研究に繋げていくための入り口のような授業です。

▼アーカイブスの構築

日本アーカイブズ学の概要を学ぶ科目です。情報メディアとしての記録資料（古文書・公文書等）の意義・歴史・機能やそれらを取り扱う上で必要な基礎知識について先生が授業に持ってきてくださる資料の実物や写真を見ながら講義を受けていきます。この授業の魅力は何と言っても先生です！もちろん講義内容もとても興味深いですが、先生のアーカイブズ学への情熱をひしひしと感じます。

おそらく一番何をやっているのかが分かりにくそうな知識科学。そこではどんなことをやっているのでしょうか？知識科学主専攻は「人間」に着目します。知識科学主専攻では、知識・情報と人間とのかかわりについて学ぶことができるのです。これだけだと漠然としていて分かりにくいかもしれませんが、具体的には、「そもそも知識やら情報って何なの？」とか、「私たちはどうやって情報を探すんだろう？」といったものです。

さて、これらの疑問を解決するには、さまざまな分野の知識が必要です。そんなわけで知識科学では、文系・理系を問わず、非常に幅広いジャンルの授業が開講されています。

▼情報資源経営実習

知識科学実習では、数週間ごとに担当の先生が変わり、質問紙調査や Moodle を用いた e-learning 教材（電子教材）作成などいくつかのプロジェクトに、主にグループワークで取り組みます。主専攻の仲間と一緒に知恵を出し合い、協力して仲良く授業を進められるのが魅力的です。前述したプロジェクトのほかにも統計処理ソフトの SPSS や R などを用いてあれこれ分析したり計算したり。2 年生までに学んだことを活かす場でもあるので、研究で質問紙調査をするときの前提知識として量的・質的調査法を履修しておくことをお勧めします。

▼アーカイブスの構築

皆さんマニュアルってご存知ですよね？携帯電話やテレビを買ったときや、お家にある電化製品が壊れたときに、引っ張り出してきて頼りにする“あれ”のことです。“トリセツ”とも言いますね。マニュアルには製品の使用方法・手順や困ったときの対処法などが載っています。この授業では、ズバリ、専門情報を正確にわかりやすく伝える方法を、マニュアル制作を通して学んじゃいます。演習では Twitter も使うので楽しいですよ！

4. ゼミ紹介

情報資源経営主専攻 逸村研究室
榎本 翔

▼はじめに

知識の学生は、四年次に卒業研究に取り組まないと卒業できません。入学してから三年次までに数十人から数百人を対象とした講義を受けて必要な知識を身につけます。三年次の 11 月頃に教員の研究室へ配属決定が行われ、卒業研究を完成させるために少人数による議論や個別指導が行われます。これがいわゆる「ゼミ」です。

▼卒業研究とゼミ

卒業研究とゼミについて、私が所属している逸村研究室を例に説明します（逸村先生は、知識の一年生が最初に受けるであろう「情報基礎実習」の担当教員です）。卒業研究のテーマは、研究室によりますが、指導教員が指導可能な手法・範囲であれば何でも選べます。今年度の逸村研究室では、大学図書館における図書館利用教育の研究、公共図書館における音環境の調査、大学生が大学院に進学する際に取り取る情報行動、ソーシャル系大学の実態調査など、さまざまなテーマを扱っています。逸村研究室には学類生から博士後期課程の大学院生、留学生や社会人院生と、多種多様な背景や興味を持った学生が集まります。先生や学生のスケジュール、学会発表、卒業研究の発表準備等の事情により、ゼミの開催頻度は隔週から週 2 と変動します。

最初に、研究したいテーマの先行研究や関連研究について、研究手法や内容をまとめて研究に関する知識を身につけます。研究テーマが決まってからは、各自の進捗状況報告を行います。指導教員にコメントをいただいたり、大学院生の先輩方から意見を聞いたりしています。卒業研究の中間発表会や最終発表会が近づくと、ゼミで発表練習を行います。スライドの作り方、資料のフォーマットなど、各研究室によって特徴がありますので、それらはゼミの中で自然に学ぶことになります。

なお、他の研究室では、輪読（同じ本について担当する部分を決め、その部分の内容についてまとめて発表）をしたり、ゼミ生の興味の方角について全員で話し合い、参考文献を提供しあったりと、また少し違うことをしています。個人ゼミが中心だったり、集団ゼミが中心だったりしますが、頻度は週に 1 回のところが多いです。指導教員がいないときでも、学生が自主的にゼミを行ったり、反省会をしたりするところもあるようですが、その年のメンバーによります。やりたいことがあれば周囲の人をどんどん巻き込みましょう。

▼研究室ってどんなところ？

研究室によって異なるため一概には言えません。逸村研究室では各自 PC と机が与えられており、プリンターやスキャナー、研究に関する学術雑誌や書籍を所有しています。実際に作業する場所は自由で、図書館や自宅で研究を行う人もいます。

また、大学のゼミというと、「合宿」のイメージがある人もいるでしょう。発表会を日夜行い質疑応答の力を鍛えるところもあれば、研究のリフレッシュとして旅行をメインで行う研究室もあるようです。私は一年生の時に逸村研究室のゼミ合宿に参加しましたが、学類生や大学院生の研究発表に参加することができ、その後の大学生活を変えるほど大きな影響を受けました。興味があれば先生方に声をかけ、ゼミの見学や合宿に参加させていただくのもよい経験になると思います。

卒業研究やゼミは大変つらいものに思われるかもしれませんが、研究室の先生や先輩方との会話をしたり、研究テーマについて誰にも負けない知識を身につけたりするのはとても楽しいです。この記事を読んでいる高校生の皆さんや在学生在が、研究室に訪れるのをお待ちしております。

5. 合格体験記

「春日民になりたい！」

そう思う方もいらっしゃるでしょう。頑張ってください！
かすがらいふ編集委員会一同応援しております！！
でも、ふとこんな疑問にぶち当たるのではないのでしょうか。

「受験ってどうすればいいの？」

それはみなさんが一回は持つ疑問、焦りだと思います。春日民も経験してきました。
「AC の対策って…」「推薦の面接どうしよう…」「二次対策はいつから始めればいいのか…」「小論文がうまくかけない…」 わからないことだらけではないのでしょうか。
でもこれらを乗り越えられなければ、楽しい楽しい 春日民にはなれないのです…。
では、先輩の春日民は受験をどう乗り越えたのでしょうか。

ここからは学類ごとに AC、推薦、前期、後期を経験したばかりの 1 年次の人にその経験談を書いていただきました（だいぶ個性豊かなところがありますが）。
先輩たちがどのように受験を乗り越えてきたのか、どう自分なりに受験を乗り越えるのか、この合格体験記を読んであなたなりに考えてみてください。

※春日民 … 春日キャンパスに通う学生の通称。

情報メディア創成学類

AC 入試	p.24
推薦入試	p.26
前期入試	p.31
後期入試	p.34

知識情報・図書館学類

AC 入試	p.36
推薦入試	p.38
前期入試（文系）	p.41
前期入試（理系）	p.43
後期入試	p.46

AC 入試

▼受験のきっかけ

この情報メディア創成学類に受験を決めたのは、高校2年の夏でした。高校入学当初からコンピューター関連に興味があった自分は、大学では情報系の勉強をやりたいと思ってました。経済的事情で国公立大学を目指していて、高校2年の三者面談に向けて各大学について調べていると、この情報メディア創成学類が国公立で唯一、「コンピューターを用いて様々なことが出来る場所」であることを知り、もともと興味が広がった自分は、この学類を受験することを決めました。AC入試で筑波に合格した先輩から勧められたことや、丁度、高校で課題研究をしていたこともあり、AC入試を利用しようと決めました。

▼高校時代の過ごし方

高校では、2年次に課題研究が必修授業であったので、1年次の時から自分のやりたいことや研究のネタを探していました。高校3年間は、自分の興味あることにどんどん挑戦して、その中でできることを増やし、経験を積みました。中学生の頃から、プログラミングとかコンピューター上でできることに関して興味があり、自分のやりたいこと・研究活動ができる高校として、横浜市の理数科高校に進学しました。高校入学当初の頃は、自分がはっきりとやりたいことを探すために、様々なプログラミング言語をいじったり、友達と面白いアプリを見様見まねで自作したりして、遊んでいました。冬ぐらいになると、情報オリンピックに挑戦したり、Androidアプリ開発に興味をもって始めたりしました。高校2年次では、Androidアプリ開発をやっていたこともあり、研究もアプリ開発をテーマに進めていました。この研究を進めている時に情報メディア創成学類を受験することを決め、研究により力を入れました。また、この研究を指導して下さった先生の勧めがあり、自分は様々なプログラミング系のイベントに参加したり、基本情報技術者試験という情報処理技術に関する資格試験を受けたりし、自分の力を高めてきました。そうして、高校3年次には、隙間時間に、なんか面白そうだったものを作れるようになりました。そんな3年間で過ごし、課題研究の成果と日常的に作ったものをまとめ上げて、AC入試でこの筑波大学に入学しました。

自分が思うに、高校時代で大事なことは、とりあえず手を動かすこと、挑戦することです。高校生でいる時間は、何もしなければあっという間に過ぎ去っていきます。自分は、コンピューターに触れているのが好きだったので、何か思いついたら色々調べて、プログラムを書いたりしていました。また、自分がコンピューター上で実現したいことを実現させるために、専門的な知識やプログラミング言語をその都度、調べ勉強して覚えました。筑波を志望してからは、AC入試のため、と多少は思いましたが、基本的に自分の好きな「何

かを創ること」を続けていました。好きなことを続けていくことも大事ですし、続けていればいずれ成果も上がるし、後悔することもなく、良い経験を積むことができると思います。

▼AC入試について・試験対策

AC入試では、志願理由書と自己推薦書が必要になります。志願理由書は800字(自分が受験した時)と字数が限られているので、簡潔に、しかも熱意が伝わるように、「筑波大学に入ってこんなことがしたい!」ということを書いていきます。自分はこんなことをやりたい、とはっきり決まっているなら書きやすいと思います。自己推薦書は、自分が今までやってきた活動をまとめたレポートです。基本的には、学類ごとに発表されているアドミッションポリシーに沿うように、レポートをまとめると思います。もし、自分の学校にAC入試で合格した先輩がいるなら一度レポートを見せてもらったりアドバイスなどをもらったりするといいと思います。あるいは、過去に合格した先輩のレポート集(<http://ac.tsukuba.ac.jp/examination/report>)を参考にしたり、筑波ではなぜかTwitterが盛んなのでTwitterにいるAC入試で受かった先輩をみつけて質問を投げってみたりすると思います。自己推薦書の分量は平均的に50枚ぐらいです。内容が大事なので量を書けばいいわけでは無いです。でも、書いてアピールしたいことがあれば気がつく、かなりの量を書いているので、正直分量は気にしないほうがいいです。ちなみに、自分は75枚ぐらい書きました。この自己推薦書ですが、夏休み前に大体書き上げることを絶対オススメします。自分は、この自己推薦書を、夏休みに、部活と普通の受験勉強と文化祭の準備(クラスと有志の企画)とピアノの発表会の練習と、非常に大量のことをやって、死にそうになりながら出すその日の午前4時に書きあげました。第一次選考はこの2つの書類で合否がきまるので余裕をもって、しっかり書くと思います。

第二次選考対策は、もう面接練習あるのみです。自分が書いた志願理由書と自己推薦書の内容をしっかり頭に入れておくことが重要で、自分は何をやってきて何をやりたいかをちゃんと説明できるようにしておきましょう。面接練習はなるべく多くの人とやって、自信をつけておくと思います。本番では、なにがあっても面接官の質問に、正直な自分の考えを答えることが大事です。

▼一言

やりたいことがあれば、合格することができる!!(と思う)、頑張れ!!
なにか質問があれば@cha84rakanalへどうぞ

推薦入試

▼高1

まだまだ文理が全く定まっていなかったのでどちらにも行けるよう、幅広く勉強していました。具体的には『入試現代文へのアクセス（河合塾シリーズ）』を定期的に解き、各問題を200字で要約し添削してもらっていました。初めは「要約ってなんだ…」状態から初め、キーワードをつかむのに苦労したりしましたが1発OKがもらえるよう頑張りました。また、現代文では毎回問題を解くだけでなくその問題文を要約しました。せっかく解くならみんなもやるべきです。成果が目に見えて変わります。騙されたと思ってやってみましょう。

→高1の時は文系に進むかもしれないから…理系でもセンターの点数が上がるなら…そんな気持ちで通っていた添削。しかし高3になって理系で推薦を受けると決め、赤本を解き始めた時、あの時の要約のおかげで入試問題の小論文は簡単に思えました。要約問題もあります。国語は強化しておきましょう。

それから、私は英語は好きだったし楽しんで勉強していました。ESS部では同期の4人で週に1度お昼に英語でディスカッションしたり、高1の間にキクタン覚えたりテストして制覇したり、文法の参考書を1冊分仕上げたり…偏差値をまだ周りのみんなが英語に本気になっていないうちにガッツリあげちゃおう！ということで全員で頑張ったことによりガッツリ上がりました。（センター189点、あと1点目標及ばず…）ご褒美のチョコと寛容でアメリカンな顧問の先生と楽しい個性的な仲間のおかげで本当に英語の勉強は楽しかったです。英語は一番友達と頑張れる科目です！単語出し合いっこしてみたり発音練習してみたり。

オススメは洋楽。歌ってください。歌詞を調べてノってればいやでも覚えるし覚えたフレーズや単語が長文で出てくことも多々あります。ノリノリの間に気づいたら英語の偏差値上がってますから。これも騙されたと思ってとりあえず今からTSUTAYAに行ってOne Directionのアルバムを借りてみましょう！（洋楽ならまあなんでもいいけど…笑）あとは授業をしっかり聞いて毎日分からないところを聞きに職員室に通って夏もしっかりと課外をとって「夏休みなのに…」と思うくらい通ってテスト勉強しっかり頑張れば大丈夫でしょう！

▼高2

理系に進むことを決め、進路について真剣に悩み始めた頃。ESS部ミュージカルが注目され部活もすごく楽しくて野球応援ではチアのチーフをさせてもらえて夏休みはオープンキャンパスに行きまくって修学旅行があってアメリカで本場の英語を聞いてものすごく充実した1年でした。

上の1文読んで、なんだこいつ偉そうなこと言っというてめっちゃ遊んでるじゃないかと思われたかもしれませんが、実はすべて推薦の材料になったんです。だから、推薦目指す人には「とりあえずしっかりと高校生活楽しんで！！！！！」と言いたいです。推薦判断基準の一つに、どのような高校生活を過ごしたか、というような問いが必ずあります。大学でも、ぼけっと過ごすな、せっかくなんだからいろんな経験をしてみなさい、と勉強だけじゃダメだというようなことをどの先生もおっしゃいます。だから高校生活をここまで充実させられて勉強も頑張ってたならきっと大学生活も充実できるだろう、と思わせられたら推薦は勝てます！！

※この頃行ったオープンキャンパスで映画を撮っている学部を発見し、情報系でCG映像などを学び、最終的にはハリウッド映画に関わりたいという意思を固めました。

▼高3

推薦なら筑波大と言われOCに行きました。筑波大学の工学システム学類にも画像処理などやっている専攻があり、最初見に行ってみたのですが、行ってみたらやれビックリロボットのことばかり！これは違う！と気づいた私は急いでパンフレットを見返し、よくよく読むと先輩の話のところに「ハリウッド映画に憧れ」の文字。私と全く同じ！こっちだ！情報メディア創成学類だ！！と気づき道に迷いながらも大移動。

でも実際にオープンキャンパスに行ったらちゃんと気付いて良かったです。だから進む大学、学部を決めたらオープンキャンパスにしっかり行ってみてください。先輩から直接受験のアドバイスをもらえるいい機会ですし、このとき知り合った先輩にtwitterで質問して情報を得て、かなり推薦入試の強みになります。

▼推薦入試でよかったと思うこと

数え切れないくらいあります。その中で1つ挙げるとすると、入学前に入学の目的、目標をしっかり定められたことです。ぼんやりしていた目標をはっきり明瞭にして相手に伝える練習はやりたいことを自分が明確に理解するきっかけとなり、入学後の生活も全然違うと思います。

▼試験対策

2分程度で話せるように圧縮。先生、友達、先輩、家族、とそれはもういろんな人の前で話し、面接練習としていろんなところを突っ込んでもらい、どこを突っ込まれても強みを出せるか、練習しました。

面接は、夏休みから長期間かけて自分の中で育て上げた本心からの言葉を言うだけだったので自信もあったしリラックスできました。

高校生活について聞かれる、と言いましたがこれは選考基準にも入っていて、ほぼ必ず聞かれます。別に生徒会に入らなくてもいいんです。部長じゃなくてもいい。私だって生徒会でも部長でもありませんでした。ただ、海外研修、野球応援、弁論大会など用意されているイベントに積極的に取り組み楽しく充実した高校生活を送ろうとしていました。楽しかった思い出をそのまま言えればいいんです。

当日は、志望理由、高校生活、好きなCG映画、大学院、留学、得意科目、不得意科目などを聞かれました。好きな映画についても、たくさんある中から教授の好きそうなものを選び、さらにその映画のCG技術について調べておいた内容を活かし答えました。留学も行きたい留学先やなぜそこなのか、そこで何をしたいか、そもそもなぜ留学が必要だと思うのかちゃんと用意してありました。

メ創の推薦試験には口頭試問が含まれます。これが、普通に数3を勉強していれば解ける問題なのですが対策としては、夏休みのうちに志望理由を箇条書きにして、大学生活を想像して思い浮かぶごとにノートに書き足してメモをつくっていました。と言っても夏休みは推薦がダメでも前期で受かるくらいひたすら勉強していました。推薦を受けてみて思ったのは、前期でもきちんと合格できる余裕のある人が推薦も受かるということ。実際、前期では絶対入れないような人が推薦で受かるのは大変稀な話です。

推薦の校内選考では、メ創（情報メディア創成学類の略称）は志望理由書がいらないもののしっかり他学類と同じ文字数で夏休みにためていたノートをもとに志望理由書を書き上げました。

志望理由書を書くにあたり、メ創を選んだきっかけはもちろん、どんな高校生活を送り、なぜ推薦なのか、将来の夢または展望がどういったもので、それに向けてメ創に入ったら何をやりたいのか、大学院に行くつもりはあるのか、何を研究したいか、入りたい研究室はどこか、将来就きたい職業（企業名まで詳しく）、留学先などとにかく細かいところまで明確にするため自問自答を繰り返し、上記のことをまとめました。

とは言えその完璧な志望理由書を試験官に見てもらえる機会はありません。試験当日は口頭で答えなければなりません。そのためには志望理由を紙上の薄っぺらいものではなく自分の本心の、深い深いものにする必要があります。

上記の志望理由書に含んだセクションごとに推薦対策ノートにページを作り、どのセクションも調べたことや自分の思い、重要だと思う点、目標などを見開き1ページ以上はぎっしりと書き詰めました。志望のきっかけとなった興味のあることも、例えば私の場合はハリウッドのCG映画(Harry Potter など)だったのでCG映画について調べまくったり、興味のあった撮影方法についての記事を読んでまとめました。

とにかく話題をどこまで広げられても答えるように、セクションをたっぷり増やしてさらにそれも深くしておきました。そうなるともうどこを聞かれても自分の強みになるんですよ。

それから、選考基準や筑波大学のパンフレットなどに書かれているメ創のページを隅々までよく読む。すると教授たちが欲しいと思っている学生像が繰り返し出てくるワードなどから浮き彫りになってくるんです。そのワードを志望理由にしっかり入れることは大きなアピールになります。

その上で、どこを突っ込まれても自分の強みを出せるようになった志望理由の要所要所を暗記。

なぜか当日変な勘違いを起こしたこともあり全く解けませんでした。とりあえず違うとはわかっていても解けるところまで解いたのですが、ヒントを頂いても全く頭が動かず、最終的に「すみません。わかりません。と伝えました。それでも笑顔で次の面接に移り、結果的に私をここにいさせて入れた先生方には感謝の一言です…なので分からなかったら潔く諦めて他で稼ぐことが大事！

筆記試験（小論文）は、私は過去問を多く解いているうちに情報理論に関する話題が多いと気づき推薦対策として先生に勧められた『シャロンの情報理論』という本を読みました。狙い通り、英文の問題は条件付き確率でした。

高1の頃の欄に書いたように、筆記試験では国語力が小論文での勝因を与えてくれました。志望理由をまとめるのにも、絶対必要になるので理系だからと言わず、強くしておきましょう！

それから私が合格できたのは間違いなく英語のおかげですね。

メ創は確かに理系けども、英語で数学が問われて（数学の問題自体は簡単）日本語の文を要約して自分の意見を述べてといった感じなので幅広く学力がある人向けです。逆に数学しか得意じゃない人は前期の方が勝てると思います。

▼受験のきっかけ

Harry Potter などの洋画が大好きでもともとハリウッドに行きたいとずっと思っていて、CG 映画に興味を持つようになりそういった映像編集技術を身につけられるようになったらいいなと思ったから。

▼将来の目標について

ハリウッドで通用するできるだけリアルな CG を追求し技術を得てハリウッドに行く。

Time Warner で映像編集者として働きたい。

留学先

UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)

ハリウッドにあり、ハリウッド映画のプレミアが行われる程のお膝元だから。

またはカリフォルニア州立大ロングビーチ校

ハリウッドに近く、あのスピルバーグ監督の出身校でもあるから。

▼試験当日

面接は一人一人行うので私の場合待ち時間が2時間と大変長く、その間に緊張します。なので待ち時間は無理して何かを暗記するのではなく、リラックスできるような友達からの寄せ書きなどを持っていくといいと思います！

あとは緊張してどうしようもない時は普段なら音楽を聴くけど電子機器は使用不可なので（待ち時間も同様）トイレに行ってジャンプしたりしてました。笑

▼一言

最後に、長くなってしまいましたが推薦はリスクも大きいけど自分をきちんと理解してやりたいことや夢や大学での目標を明確にできるいい機会です。倍率もそこまで高くないし、人と話すことが得意な人にはお勧めします。

先ほども述べたように私はメ創の先輩方（推薦入試を実際に受けた先輩含む）に直接アドバイスをもらって合格につなげました。なので私のこともどんどん活用していただいて構いません。めその推薦入試に興味がある方、不安がある方、なんでもいいので私に聞きたいことがある方は twitter@smiley_juliy716 までどうぞ！

情報メディア創成学類

前期入試

▼まえがき

私の体験記に何を期待するか、体験記を見て何を思うかはひとそれぞれだと思います。ですので私は私の思ったことを思ったままに書きます。参考にするなり反面教師にするなりは好きになさってください。といっても大したこと書いてないから気楽に読んでね。

▼受験のきっかけ

まず私は理系ではない。数Ⅲは得意だが理科がめっぽう弱かった。一番の得意科目は英語、次点で現代文。理科よりも社会の方が好きだし得意であった。そして私は幼いころからゲームが好きだった。とにかくゲームをやるのが大好きで、いつからか自分でゲームを作りたいと思った。私が目指した学部は情報系だった。

以上2つの条件から私の志望校は二次に理科がない情報メディア創成学類に決まった。ほかにも二次に理科がないところはあったが、この学部が一番惹かれた。理由は、「いい意味でよく分からない」から。あなたはわかるだろうか。「情報メディア創成」学類が具体的になにをしているか。わかったあなたはとても優秀だ。受かる。おめでとう。でもほとんどの人がわからないと思うし、実際私もわからなかった。調べても情報系を広く扱うくらいしかわからない。私の調べ方が悪かったのかもしれないが。私は逆にそこに強く惹かれた。私にはゲームを作るという夢があったが、だったらH○Lにいけばいい。私は大学で様々な見識を得て、いろいろなことを学びたかった。夢といってもあくまで現段階での夢にすぎない。大学で将来やりたいことをみつける、十有八にして不惑 など孔子に叱られるだろう。

ごちゃごちゃしたが何が言いたいかというと、この学類いろんなこと学べておもしろそうだったから受けました。まる。

▼高校時代の過ごし方

結構遊んでいたし勉強もしていた。特筆することはない。ただ、勉強でわからないところがあったら躊躇わず他人に聞いていた。それと家では絶対に勉強しなかった。学校か塾の自習室を使っていて、家に帰ったら一切勉強はしなかった。Y○uTube みてた。メリハリは大事だと思う。

▼前期入試について・試験対策

赤本はよく読んだ方がよい。必要な情報がかいてある。過去問解くのは大事だと思う。私は東〇ハイスクールの HP から過去問 10 年分印刷して解いて、センサーに採点してもらった。あと参考書は 1 冊コレと決めてその参考書と心中しよう。

▼一言

A4 二枚の依頼で受験のきっかけや高校時代についてもっと書かなければいけないのだろうがもう終わってしまった。あとはこの項だけだ。しかしあと A4 一枚分ある。ということで、なぜ書くことがないか、説明をしようと思う。あくまで説明である。実は受験のきっかけについても前期についても私が書けるようなことは多くない。さっきも書いたが、私はこの学類について詳しく知っていたわけではない。「東京以外の関東圏 情報 二次試験に理科がない ある程度の偏差値」これに当てはまったからである。私のような人間は稀有だと思っているのであまり参考にならないだろう。もし私と同じような状況の人がいたとしても私は「楽しいよ、おいで」としか言えない。この感想も極めて主観的なものだ。前期についてもみな自分で調べているだろう。ゆえに書くことがない。没個性的なものならいくらでも書けるが時間と紙の無駄だろう。しかしこのままではあまりに参考にならないとお叱りを受けかねない。ここに防護柵としてかすがらいふ 2014 年度夏号を読むことを推奨しておこう。

余った半ページは入学してから今までに私が思ったことをいくつか書こうと思う。これがあなたのモチベーションにつながることを、また、この学類に対する新たな発見等になれば幸いである。

・先ほどから述べているように私は理科ができない。入学前は「理科ができない人が多いだろう」と思っていたがそんなことはなかった。むしろ私のような存在はめずらしいようだ。それでも私と似たような人も何人か見かけた。

・現在の生活はとても楽しい。毎日新しいことが学べる。周りにはクリエイティブな人間が多く、いい刺激をうけられる。私は入学前、PC は Y〇 uTube でしか使っていなかったので一からプログラミングを学んでいる。クリエイティブな人間が多い反面、私のような PC 初心者も多くいるので特に詳しくなくても大丈夫。

・ここで情報科学類と情報メディア創成学類の主な違いを書いておこう。情報科学類ではおもにハードを扱い、情報メディア創成学類ではソフトを扱う。簡単にいうと、情報科学類で作ったものを利用してモノづくりをするのが情報メディア創成学類だ。

・ここには様々な分野に興味を持つひとがいる。電子工作やプログラミング、音響や 3DCG など多様だ。きっとやりたいことが見つかるだろうし、それをサポートしてくれる環境がある。

▼あとがき

ここまで読んでくださりありがとうございます。こんな駄文を理解して読めた人はきっと現代文満点とれます。前期入試まであと半年、妥協しなければ必ずうまくいきます。頑張ってください。

無事この学類に合格して僕、齊藤に「かすがらいふを見た」というと隠し特典があるよ。ぜひ話しかけてね。質問とかあったら Twitter @shunP029 までお気軽に～。聞くかどうか迷ったら聞いた方が絶対得ですから。鍵かかってるけど気軽に送ってね。それでは皆さんの武運長久を祈って

後期入試

今回、後期試験合格者として受験生に向けた記事を書いてくれと依頼されたんですが……。

うーん、ぶっちゃけ後期入試のためのアドバイスが役立つ人って、運悪く後期入試を受けることになってしまった人だけだと思うんですよね。誰も好き好んで受けたいと思う人はいないでしょうし。

とにかく、まずはセンター試験&前期に向けてしっかり勉強して下さい。まあ、後期試験は小論文という名の英語で数学を解く問題 & 国語力の問題だったとか、全問一通り触れているのが前提なので時間配分に注意するとか、過去問(赤本)は2年分しか収録されてない & 解説が貧弱なので早めに手配しておくとかいいとかアドバイスできることはあるにはあるんですが……。

そんなことよりも大切なことは、「合格すること」への意志だと僕は考えていて、今回それに関して記事を書くことにしました。

後期試験を受けることになってしまった人以外にも役立つ内容かもしれないので、ぜひ一読していただければ。

いま、あなたが一番やりたいことはなんですか？
そうですね、例えば「それが叶わなかったら死んでも構わない」ぐらいに思えることがそれにあたるものでしょうか。無い人はとりあえず「そのように思えるものを探す」を目標としておきましょう。

ここで覚えておいてもらいたいのは何をやりたいかは自由だ、ということです。目標の大きさも特に関係ないし、親だろうと学校だろうと誰だろうと縛っていいものではありません。肩書きだろうが年齢だろうが何だろうが関係ありません。

では、次にその目標を達成するために何が必要かを考えてみましょう。
こういう何かを考えるとときにはメモを書くクセを付けることをオススメします。

じゃあ、例えば運動部でレギュラーになりたいとしましょう。
まず、レギュラーになるには強くなる必要があります。強くなるには練習が必要です。じゃあどういう練習をすれば強くなれるのでしょうか？そもそも、どのようなプレイをすれば勝てるのか？長所を伸ばし短所を克服するにはどうすればいいのか？もう既にレギュラーで活躍しているアイツがどうしてるのか？
……のように思考をフル回転させます。

さあ、あとは実行するだけです。

もちろんすべてが上手くいくとは限りません。所詮ちっぽけな脳ミソの中だけで考えたこと。計画の途中で軌道修正する必要があるかもしれないし、そもそも一番やりたいことが変わってるかもしれない。結果、目標達成はできないかもしれない。

まあそれがどうであれ、すべて終わったあなたにもう一度問いかけさせて下さい。

いま、あなたが一番やりたいことはなんですか？

……これは、人が何か物事を達成するために行う「当たり前」のプロセスです。受験にも応用が効きそうですね。

なんでクドクドとこんなことを書いたかというと、僕がこの繰り返しが生きること——人生——そして進路に繋がると考えてるからです。

前に、僕は「何をやるかに環境など関係ない」と書きました。しかし、環境からの束縛や影響は無視することはできません。どうしても周りの人間からの影響は避けられないし、前述の「学生なら最低限学業で結果を出さなければならない」など正にそれでしょう。

ならば、自分が一番やりたいことをやるための最高の環境に身を置こうじゃありませんか。

さて、あなたが一番やりたいことのための最高の環境はどこですか？

こんなセリフ聞き飽きたかもしれませんが、あなたの人生はあなたのものです。
だからあなたの人生の責任はあなたにあります。他の誰にもありません。
自分の人生は自分に責任があるという自覚が、自分の人生を自分で切り開いていこうする力が、「合格すること」への意志に繋がると思います。

もしあなたが一番やりたいことをやるための最高の環境がここならば、来年お会いしましょう。
それでは。

AC 入試

▼ AC 入試とは

AC 入試は、筑波大学の多様な入試形態のうちの 1 つで、「課題を見つけ、解決する能力」を自己推薦することによって合否が決定する入試です。

試験は、まず志望理由書と自分の能力についての自己推薦書を送る一次審査があり、それに合格すれば、筑波大学で 1 対 3 で行われる面接を受けます。

知識情報・図書館学類の AC 入試では特に、問題解決能力、そして説得力のある論理的な説明力が重視されています。

▼ 受験のきっかけ

私が筑波大学の知識情報・図書館学類の AC 入試を受けようと考えたのは、本当にぎりぎりのことで、高校 3 年の 7 月くらいでした。それまでは正直、なんとなく大学を決めて、なんとなくどこかを受験する気だったのですが、受験の時期が近付いてきたときに、勉強だけで評価されるのは嫌だなと考えるようになりました。

というのも、私は高校時代、人並み以上に演劇部での活動に力を入れていました。しかし、私の部活はさほど強い部活でもなく、自分の頑張ってきたという気持ちとは裏腹に大会で賞を受賞するなどの結果も伴っていませんでした。だからというわけではないかもしれませんが、演劇部での私の活動を知っている人は、部活の人間以外にほとんどいないし、表立って評価を受けたわけでもありませんでした。

本当に好きで、本気でやってきたものが評価されずに、周りがやっているからというだけで勉強してきた、数学や英語や現代文の能力だけが評価されて、4 年間通うことになる大学が決まってしまうことが嫌だったのです。

そんな時に見つけたのが、筑波大学の AC 入試でした。この入試方法であれば、私が活動してきたことで評価してもらえるのではないかと考えたのです。

▼ 試験対策、私の経験とアドバイス

AC 入試に向けて、まずは自分がこれまでに行ってきた評価してほしいことを、自己推薦書にまとめます。

この時私が重要だと思っていることは、「結果」でなく「経過」を詳細に書くことです。もちろん結果はその過程に伴うものですから、良い結果がマイナスポイントになることはありませんが、AC 入試では評価されるポイントがそこではないと私は思っています。

実際に私は目立った結果がたくさんあったわけではありませんでしたが、こうして AC 入試で合格することができています。評価される場所は、自分が何かをするために、どう考え、実際その結果につなげようと、どんな努力をしてきたのか、ということだと思います。

これを文章に起こすという作業がなかなか難しいです。自己推薦書と志望理由書のみで一次試験に合格するかしないかが決まるので、文章だけで、話を聞いてみたいと思わせなければいけません。相手の反応が見えず、どういう書き方をすれば伝わるのかを考えることが難しかったです。

AC 入試合格者の話を聞いていると、添削してもらっている人が多数のように思います。ただ、私の場合は、添削してもらったのは志望理由書のみで、自己推薦書については、添削というより、いろいろな人に読んでもらって意見を聞き、相手の反応をみて書き換えていくことをしました。

一次試験に合格したら次は二次試験です。

二次試験は 3 人の試験官と質疑応答を行います。質問の内容はほとんど自己推薦書の内容と同じなので、自己推薦書をきちんと自分の言葉で書いていれば、問題なく質問に答えられると思います。緊張するかとは思いますが、肩の力を抜いて楽な気持ちで面接に向かうのが良いのではないのでしょうか。

模擬面接についても私は一度しか練習しませんでしたし、実際面接に行ってみて模擬面接で聞かれたことは 1 つも聞かれませんでした。緊張に慣れるという面ではたくさん面接練習をすることも必要かもしれません。

面接については落ち着いて挑むことが第一です。緊張して自分の伝えたいことが伝わらなければ元も子もありませんからね。

▼ 一言

自分がこれまでやってきたこととしっかり向き合って、自分の能力を出し切って試験に挑んでください！

推薦入試

▼受験のきっかけ

私は昔から本が好きだったので、当然のように頻繁に学校の図書室に行ったり図書委員会に所属したりしていました。そのうちに本だけでなく図書館自体に魅力を感じるようになり、将来も図書館に関わりたいたいと考えるようになりました。そんな中、学校で配られた進路情報が掲載された冊子で「図書館情報学」という学問を知り、これを勉強すればより図書館に詳しくなれそうだと考えて、「図書館情報学」が学べる大学を調べました。その中で、唯一の国立大学であり図書館情報大学といういかにも図書館の勉強をしていそうな大学を前身とする、筑波大学の知識情報・図書館学類を志望するようになりました。

▼高校時代の過ごし方

私は中高一貫校だったので高校受験がなく、中学時代はゆったりした生活を送っていたため、高校入学時成績はかなり悪かったです。このままでは良くないと思い、宿題はしっかり提出し、定期テストだけは勉強するようになりました。結果として高2の秋ぐらいには文系の約120人中20位以内ぐらい、高3ではトップ10前後ぐらいまで成績を上げることができました。

その一方で、高3の5月までは吹奏楽部に所属してそれなりに忙しい日々を送り、授業以外の勉強はあまりやらなかったため、模試はあまり得意ではありませんでした。一般入試も視野に入れていたこともあり、高3の夏休みは1日10時間くらい一般入試の勉強をしたのですが、推薦入試の勉強を始めると模試の成績がガタ落ちしました。推薦入試が不合格だったときのことを考えると、もう少し頑張っておくべきだったと思います。

推薦入試やAC入試のことは高1の秋ごろに知り、早くから受験を考えていました。何か役に立つことがあればと思い、高2の1年間を通してホームページを作成する大会に参加して賞を頂きました。このように何かしらの活動をしておくと自信になるうえ、後述する提出書類にも書くことができたのでやってよかったと思っています。

▼推薦入試について

◆提出書類

志望理由書は推薦入試で必須の提出書類です。私は主に進路指導の先生に添削してもらっていました。また、1人の添削だけでは気づかないこともあるのではないかと思います。他の先生にも見てもらいに行くこともありました。結局10回以上は書き直したと思います。

自己推薦書は必須の提出書類ではありませんが、上記の大会の活動の内容を10枚程度でまとめたものと、大会で作った作品の資料70枚程度を自己推薦書として提出しました。私はどうしてもこの学類に合格したかったのでここまで大量の書類を提出しましたが、正直こんなに必要ないかもしれません。しかし、頑張って書いた書類はきっと無駄にはならないし、余裕があれば自己推薦書のような自己アピールできる書類を提出するのも合格へ近づく道の1つだと思うので、書けることがあるなら挑戦して欲しいです。ただし、平成28年度の募集要項にはそのような書類を提出して良いとの記述はなかったので、一度大学に問い合わせると良いと思います。私は大学に電話をかけて確認してから書類を作りました。

◆小論文と面接

小論文は、オーソドックスな日本語の小論文と英語の長文読解のようなものが出題されます。日本語の方は普通の小論文なので、練習を重ねればきっと上達します。私は過去7年分の過去問に加えていくつか他の大学の小論文にも取り組み、学校の先生に添削して頂いていました。小論文の取り組み方には様々な意見があるかもしれませんが、私はとにかく大量の小論文を解くよりも、1つ1つの小論文で満点が取れるぐらい完璧な解答が書けるようにした方が実力は付くと思います。また、最も良い練習になるのは過去問だと個人的には思いますので、過去問にはしっかり取り組みましょう。英語の長文読解は、文章自体の難易度はそれほど高いものではありません。ただ解答形式は記述式なので、先生を捕まえて添削をお願いすると良いと思います。そうすることで自分の和訳の癖ややりがちな細かいミスを知ることができて、推薦入試だけでなく一般入試の対策にもつながります。

面接は15分程度、試験管と3対1で行います。対策は、高校の先生に面接の練習をしてもらったり、過去に出た質問とそれに対する自分なりの答えをノートにまとめたりしていました。本番では答えを考えておいた質問は1つしか聞かれませんでした。面接の練習やノートにまとめることは、様々なタイプの質問の答えを考える練習になったと思います。本番は雰囲気も和やかで、焦らずきちんと自分の意見を言えれば大丈夫です。

◆アドバイス

オープンキャンパスや11月に行われる雙峰祭(筑波大学の学園祭)の相談コーナーに行くと、推薦入試で合格した先輩がいます。そのような機会を活用して推薦入試のことを沢山聞いておくといいと思います。推薦入試の形態は大学や学類によって様々であるため、対策を知るには先輩に聞くのが一番です。

また、推薦入試の勉強をしている時期に、周りは必死で一般入試の勉強をしています。推薦入試を受験する場合、その準備に時間がかかるため、よほど凄い人でない限り成績は相対的に下がると思います。推薦入試を受験する人こそ、本格的に推薦入試の準備を始める秋より前の夏休みぐらいまでは、死ぬ気で一般入試の勉強をしてください。

▼一言

推薦入試は辛かったです。きっと推薦入試に限らず、どの入試形態でも受験は辛いものだと思います。しかし、合格したら頑張ってたかったときっと思えます。もっと頑張っておけばよかったと後悔することのないように、ぜひ合格したいという強い気持ちを持って受験を乗り越えてください。

大学生活は高校生活より自由にできることも増えます。「やりたい!」と思えることも見つかるはずです。春に皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

知識情報・図書館学類

前期入試 (文系)

▼受験のきっかけ

高校1年生の頃、私の将来の夢は司書でした。司書資格をとりやすい大学をインターネットで検索したことが筑波大学の知識情報・図書館学類を知ったきっかけです。しかし、後に地元では司書の働き口が絶望的に少ないことを知ってしまいました。図書館で働きたいだけで志望校を決めるのも安直かな、他の大学にしようか、と考えたこともありました。結局、1年生の冬に学類のシラバスを眺めて、ここで学べる情報学や社会学は、将来どんな職に就こうとも必ず役に立つはずだ!と確信し、改めて受験することを決めました。

ちなみに、志望動機の2割くらいは「模試の判定がよかった」という現実的な理由でした。大学受験は人生でも有数の大きな分岐点ですから、自分の理想とも相談しつつ、無理をしすぎない志望校を定めるべきかと思います。

▼高校時代の過ごし方

3年生の6月に引退するまでは、部活に全力を注いでいました。ただ、早いうちに第一志望を決めていたことで、いつも心の片隅には大学入試が居座っていました。私が受験勉強として心がけていたのは、「授業をきちんと聞いて覚える」ことです。ノートをとる時は、板書と先生の話から要点をまとめていました。このやり方はかなり頭を回転させる必要があり、居眠り防止になります。また、覚えるべきことを自分の言葉で整理するのは、教えてもらったことを理解するための近道です。

私は、3年生の夏休み前までは授業に関係する勉強に専念して、それ以外の受験勉強はほとんどしていませんでした。常日頃の学習については、自分の能力と性格に合わせた方法をとるのが最も生産的です。ちりも積もれば山となる、を信じてコツコツ努力するもよし。授業なんか聞いてらんねえ、という人は授業中にこっそり自分で選んだ参考書に取り組むもよし。ひとつだけお伝えしたいのは、高校3年間で積み上げた学びは、受験期に突貫工事で築いたのよりも強い武器になる、ということです。

▼試験対策

1日に何時間も図書館に籠るような、本格的な受験勉強を始めたのは3年生の夏休みでした。当時は入試まで半年あるし余裕じゃん、なんて思っていました、ギリギリになってから行動する癖がついていると、後から辛くなってきます。英単語や古文単語、世界史や日本史の年代暗記は、遅くとも夏休み前に始めるべきでしょう。どれも模試などの実戦的な問題を解く際の骨組みとなります。骨組みができあがれば、記述力などの肉付けが容易にできます。受験勉強は量がものをいう場合も多々ありますが、例えば世界史なら最低限「この時期までに時系列並び替え問題を百発百中にする」「この時期までに200字の論述が書けるようになる」のように、本番の試験を受けるまでの段階的な到達目標を立てておくのが良いと思います。たくさん取り入れた知識を実戦で使えるようにつなげる力が大学入試、特に記述試験の出来を左右します。

また、私は数学ができなくて文系を選びましたが、結局センター試験でも二次試験でも数学を使って受験をしました。文系でこの学類の受験を考える人の中には、数学が苦手な人もいることと思います。個人の経験ではありますが、数学の力を身につけるためには、基本の公式とその意味するところをきちんと理解した上で大量の問題を解くことが、地道ながらも確実な方法です。例えば数列なら、シグマの計算や和から一般項の導出などを難なくできるようになるまで練習問題に取り組みましょう。標準レベルの問題を難なく解けるようになれば、あとは発展問題を解きまくって、解答の筋道を立てるためのアイデアを集めるだけです。数学の先生方も頼って、最後まで頑張りましょう。

もうひとつ、現時点で筑波大学の受験を視野に入れている人は、一度筑波の赤本を読んでもみましょう。暇があれば、時間を計って解いてみてください。周りの人やインターネットから、筑波大学の英語は長文が長すぎるとか、数学が簡単だとか、色々な情報が入ってくると思います。それを鵜呑みにせず、自分の目で問題を見て自分の頭を使って解いて、筑波の入試問題がどんなものを自分自身の感覚で把握してください。すると、自分に何が足りないかを知ることができます。これをもとにしてどんな勉強をするか考え実行することが、最善の入試対策です。

▼一言

自分に合う勉強法を確立させ継続してください。当然ですが大学に合格しても勉強からは逃げられません。受験生のうちに勉強とのうまい付き合い方を覚えてくるのがオススメです。大学生は楽しいよ。皆さんの健闘を祈ります。

知識情報・図書館学類

前期入試（理系）

▼受験のきっかけ

受験年度の4月の段階で、第一志望としてこの学類を選びました。「情報系」「文理融合」「図書館」といった言葉が心に引っ掛かったのかもしれませんが。省みると、印象だけで志望校を選んでいて自分に笑ってしまいますが、それでも第一印象は志望校を決める上で重要なファクターだと今でも思います。また、大学受験に関する情報は志望校を決めてからも継続的に収集しました。筑波大学に限らず、受験を検討している他大学についても情報収集を怠りませんでした。ウェブサイトから情報を集めたり、現地で開催されるイベント（説明会など）に参加したりすることをお勧めします。

▼高校時代の過ごし方

部活・文化祭・運動会・ゲームなどに時間を費やしていました。大きい学校行事が高3の5月に終わり、その後は多くの生徒が受験勉強に勤しんでいました。学習面に話を移しますと、私が在籍していた高校は授業進度が早く、2年次までに高校で学習する範囲を終えて、3年次は講義と入試問題演習を並行していました。当時はふるい落とされない程度に勉強していました。校内では中下位の成績でしたが、なんとか授業にはついていけました。長々と書きましたが、実は在学中に体調を悪くし、私は大学受験をしないまま高校を卒業しました。高3の時は頑張る受験生を傍から眺めていました。

▼浪人時代の過ごし方

体調をかんがみ、予備校に通わずに受験勉強をしていました。満足以勉強できない日は精神的に辛かったことは確かですが、割り切って好きな本を読んだりしていました。大切なことは1年間受験勉強を続けることですから、辛いときは迷いなく休憩をいれました。逆に体調の良いときには徹底的に勉強しました。「できるときにやれ！」私が1年間掲げ続けた標語でした。とにかく「自己管理」が大事なのだと自分に言い聞かせ、受験計画から受験票管理に至るまで基本的に自分で管理するよう心がけました。最初は大変でしたが、大変なのは最初だけでした（笑）。良い経験だったと今になって思います。

受験生の皆さんには「日記をつけること」をお勧めします。私の場合、1日の終わりにその日の学習内容を振り返りながら（教材を見ないで内容がいえるように！）簡潔にまとめていました。日記は挫折率が高いですが、話題を受験内容に限定する、自分の机の上に常に置いておく（ペンを必ずセットにする）、など工夫すれば続けやすくなります。Twitterの過去ログを見るといろいろ思い出すように、日記を見るだけで簡単に復習ができるようになります。時間はかからないので、ぜひお試しください。

▼試験対策

◆教科書

4月に受験科目の教科書を購入しました。教科書は解説してくださる先生がいて効力を発揮する教材ですから、その意味では浪人生には無用であるように思われますが、「出題範囲のすべてが載っている」「簡潔にまとまっている」などの利点があり、いくらでも使い道はありました。たとえば索引を使い倒す、本文を暗唱するまで朗読するといった使い方があります。こうした使い方は浪人生でなくても役に立つと思いますので、うまく取り組んでください。

◆英語

英語教材は辟易するほど巷にあふれていますが、「××だけやればいい」などのうたい文句には気を付けてほしいですね（英語に限った話ではありませんが）。英語力は、単語・文法・表現・運用など、さまざまな要素で構成されています。理屈も必要ですし、暗記も大切なことです。多くの素材を通して、総合的な英語力を身につけてほしいと思います。

◆数学

数学の勉強は、計算や解法暗記だけではありません。定義、そして定義から証明される定理という「数学の構造」を大切にしてほしいと思います。教科書に載っている証明は自力で導出できるとよいでしょう。ところで、理系受験生は前期試験において「Ⅱ＋B」「Ⅲ」「Ⅲ＋B」「Ⅱ＋Ⅲ」の中から1つだけ選択して解答することになります。私は「Ⅱ＋B」を選択しました。点数をとりやすいと判断したからです。理系の方々は当然数学Ⅲまで履修しますし、私もそのようにしましたが、理系学生が必ず「Ⅲ」を選択する必要はありません。私は過去問を3年分解きましたが、「Ⅲ」は途中の計算が煩雑になることが多く、よく計算ミスをして減点されていました。受験生には実力・相性を自己分析したうえで選択することを強く薦めます。

◆選択科目

「物理」を選択しました。前述のとおり私は計算ミスの多い人間なので物理は最後まで点数が伸び悩みましたが、それほど気にしませんでした。なぜなら、選択科目は英数の半分の配点しか与えられていないからです。この学類の前期試験は「英語→数学→選択科目」という順番ですから、英数で他の受験生に差をつけられれば選択科目は気楽に受けることができます。点数を取るという視点から考えれば、それが良策だと思います。とはいえ、受験生はセンター試験でも同じ科目を選択するはずですし、しっかり全範囲を勉強してくださいね。

◆過去問

重要な教材です。全員が必ず手を付けるべき教材ですが、取り組む時期は人によって異なります。まわりが手を付けている姿を見ると焦ってしまいましたが、自分のペースで。私は夏と二次試験直前に取り組みました。夏は、7月中旬に受験科目の知識補充がおおよそ完成したので、時間無制限でどれだけ解けるかを試しました。センター試験は、すべての時間を実際の試験日程に合わせて取り組みました。ベストな利用法だったと自負しています。

▼一言

大学受験で必要とされるのは学力だけではないように思います。解けない問題を捨てる力、短時間で二択から選びきる力、そういった胆力は必要ですし、体力ももちろん大事です。総合的に頑張ってください。そのためにもよい教材、よい友人、よい先生との出会いを大切にしてほしいと思います。

後期入試

▼受験のきっかけ

この学類は、図書館司書になりたくて来た、という人が多いのですが、私はそうではありません。私はもともと理系で、医学部を目指していました。どうして医者になりたかったかというと、「自分にしかできない方法で、多くのひとを助けられる人間になりたい。」と思ったからです。しかし、勉強を進めていく中で、興味関心を抱く分野が文系理系を問わず広がっていき、どちらも勉強したいと思うようになりました。そこで、文理融合を掲げる国公立大学の学部を調べた結果、この学類にたどり着きました。この分野では様々な分野を学べるというだけでなく、その知識を活かして様々な分野の知識を扱うメディア関係の仕事をするための、情報系の知識を専門的に学ぶことができることも大きなポイントでした。

みんなが専門分野を絞って大学を選んでいくなかで、あえて専門を決めず、様々な分野を扱える人間をめざし、それによって、必要な情報を必要としている人に届ける。そんな自分らしい形で、多くの人を助けられる人間になれると思ったので、この学類、この学問分野を選びました。さらに、この筑波大学はほかの大学に比べて他学群の授業を受けやすいことも、様々な分野の勉強がしたい私にとって理想的な環境であったことも要因となりました。

▼高校時代の過ごし方

私は聖歌隊と英会話部と理科部に3年間所属し、そのほかに地域活性化のための校外活動にも1年半ほど参加していました。高校3年生の夏に日本語ディベート甲子園という大会の関東予選にも出場しました。勉強はあまりしていなかったというのが正直なところですが、こうした色々な経験を通して、本当に大学で学びたい学問を見つけることができたと思っています。国公立大学を目指す高校生ともなると、1年生のころから勉強中心になってしまうかもしれませんが、受験が間近に迫る前に、やってみたいことに挑戦してみるのも重要なことです。それが受験勉強のモチベーションになります。直前になって学びたい分野を変えて、志望校を変えとなると、かなり対策の時間が限られてしまいます。どんな環境で、どんな学問が学びたいのか、具体的に考えてから志望校を決めるためにも、早いうちに、自分のやってみたいことに取り組んでみる方が良いです。

そうはいつても、勉強をまったくしないというわけにもいきません。1,2年生の時は、とにかく授業の予習・復習をコンスタントにこなしました。3年生になったら、授業内容と受験が必ずしも直結するとは限らないので、自分のできない部分を模試などで明確にして、自分で対策用の参考書を買って、解き終える期日と1日のノルマを決めてこなしていました。勉強する場所や時間を決めたり、勉強する気分になれないときは勉強せざるを

得ない環境にしたり、工夫するとよいです。私は真面目な友人と一緒に勉強したり、塾の学習室でほかの受験生と一緒に勉強したりしていました。なににしても、3年生は何の勉強をどのくらいまでやるのか決めることが大切です。そのために、まずゴール、志望校を決めましょう。ゴールが決まったら、次に、1日にこなす勉強量を決めます。それができれば、勉強ばかりする必要はありません。人生に1度の高校生活を十分に楽しんでください。高校生にしかできないこと、たくさんありますよ。

▼試験対策

私は他の国立大学の前期試験を受けたので、その対策をかなり重視していました。そのせいでセンター試験は8割に届きませんでした。国公立大学を志望するなら8割は超えたいところです。しかし8割弱取れば、十分逆転が可能です。文章を書くことに不安がない人であれば、センター試験の点数が比較的低めの人でも十分合格が狙えます。

後期試験自体の対策は、センター試験が終わってから始めても十分間に合いました。センター試験の1週間後くらいから筑波大学の過去問を2年分解き、国語の先生に添削していただき、何度か書き直して、自分で理想的な回答を作りました。その上で、同大学や他大学の、同じ系統の問題を、最新の過去問に合わせて量を調節し、今度は時間内に解く練習をしました。それほど多くの問題をこなしたわけではありません。直前の対策はあくまでも問題形式に慣れるために行うもので、文章を書くことにそもそも不安がある人はもっと前から、それこそ、この学類の後期試験を受けると決めたときから始めるべきです。なお、2015年度は例年と違って数学的な問題が出題されました。文系の人からすると一見難しそうですが、センター入試レベルの高校数学の基本を押さえていれば、問題なく解けると思います。

正直なところ、文章を書く力は一朝一夕で身に付くものではありませんし、毎日文章を書いたり新聞を読んだりする時間を受験生が確保することは難しいと思います。早めに対策を始めるのであれば、まず文章を添削してくれる先生を見つけること。個人的には郵送する添削講座より、直接何度もやりとりのできる学校か塾の先生がいいと思います。次に、手に入れやすいもので構わないので、類似の小論文の問題を探して、それを1週間に1度くらいのペースでコンスタントに解き、先生に添削してもらい、軽く書き直すことを続けるのが一番有効だと思います。

▼一言

大学は、受かるかどうかより、行きたいかどうかで選ぶことをおすすめします。そうしないと、受かったとしてもきっと後悔します。受験勉強はつらいかもしれませんが、我慢した分だけ楽しい大学生活が送れると思うので、やれることは全部やりきってみてください。これを読んだあなたが、あなたの一番行きたい場所に行けることを願っています。

6. 生活体験記

春日での生活形態には以下の三つがあります。

- ・学生宿舎
- ・アパート
- ・自宅通学（宅通）

そう聞いて、またこんな疑問も生まれるのではないのでしょうか。

「宿舎ってどんなところ？」

「アパートってどうやって選べば…」

「宅通って一日をどう過ごしてるのかな」

実際の春日民がどのように生活しているのか、皆さん気になるところでしょう。

ここからは、学生宿舎、アパート、宅通のそれぞれで生活している1年次の人にその様子を書いていただきました。メリットやデメリット、一日の過ごし方などについて書かれています。普段春日民がどのような生活を送っているのかを知り、あなたが春日民になったときのかすがらいふ構想をどんどん膨らませてください。

学生宿舎	p.49
アパート	p.52
自宅通学（宅通）	p.55

学生宿舎

春日エリアにある春日宿舎では、知識情報・図書館学類とメディア創成学類の学生（以下、春日民）だけではなく、看護や医療科学、医学類の学生も生活しています。春日民の主な活動拠点となる7A棟（教室がある建物）だけでなく、つくば駅やイーアスつくば（大型商業施設）にも近い春日宿舎での生活、ちょっとだけ紹介します！

▼設備紹介

◆各部屋

1部屋およそ6畳でベッドと学習机、イスが備え付けです。コンセントは窓際に2か所、ドアに近いところに1か所（それぞれ2個ずつ）あります。決して広くはありませんが、工夫次第で居心地の良い空間にすることができます。

◆捕食室

各階にあり、ガスコンロとシンク、洗濯機や乾燥機が設置されています。食事時は利用する人が多いので、同じ階の人と交流を深めるチャンスです。料理やサークルの話をして仲良くなれます。

◆大浴場・コインシャワー

大浴場が各棟の中にあるのは春日宿舎だけなんです！冬の寒い日に入浴のために外に出る必要もなく、入湯料もかからないのでよく他の宿舎の人に羨ましがられます。湯船にお湯が張られるのは2日に1回で、利用時間は17:00～22:00です。サークル活動などでこの時間内に入れない場合は、各棟1階に3つずつある9分100円のコインシャワーを使うことになります。

◆談話室

女子棟は2階、男子棟は1階に一部屋ずつあります。教えあいながらテスト勉強をするのに利用したり、パソコンを持ち込んでDVDをみたり、大人数でわいわいしたいときはこの部屋の出番です。女子棟の談話室は利用が23:00までなので注意しましょう。

▼メリット・デメリット

<メリット>

◆7A 棟が近い

7A 棟では春日民が受講する専門科目、専門基礎科目の多くの授業が行われます。そこに近いということが、春日宿舍の最大のメリットだと思っています。1 限が 7A 棟である日は徒歩 5 分以内の場所で授業が行われるので、朝もゆっくりできます。だからといって油断していると寝坊や遅刻も…。

◆家賃、水道代、光熱費が安い

水道代、ガス代は入居時に家賃と一緒に 1 年分まとめて払います。今年度は約 21 万円でした。つまり、水道やガスはどれだけ使っても料金が変わることはありません。なので、ガス代を気にせずたくさん自炊して料理の腕をあげられるなどのメリットがあります。電気代は 3 か月ごとに請求されますが、アパートなどと比べると格段に安いです

◆急な誘いにも対応しやすい

大学生というのは、その場の流れでごはんに行ったり遊びに行ったりすることが多いです。宿舍住みなら門限も終電もないのでこれらの誘いに柔軟に対応できます。

◆入学前から友達ができやすい

宿舍への入居は入学式の 2 ～ 3 日前になります。そこで隣の部屋の人にあいさつをして、そのまま仲良くなり入学式も一緒に参加する、というのはよくあるパターンでしょう。入居したら色々な人に積極的に話しかけてみてくださいね。

<デメリット>

◆マナーを守らないとみんなに迷惑がかかる

捕食室での食材、食器の放置は例の黒光りする虫の発生を招きます。また、夜遅くに捕食室を利用したり、ドライヤーや電子レンジを使ったりすると結構音が響くので同じ階の人に迷惑がかかります。

◆気温調節が大変

夏場は暑く、特に梅雨の時期は湿気がひどいです。筑波大学内の電気店アイデンなどで宿舍用のレンタルエアコンの契約をおすすめします。

◆時間にルーズになりがち

メリットの欄であげたように、移動時間に余裕がある分、個人差はありますがギリギリでの行動が増えます。アパートで一人暮らしの場合と同じですが、干渉する人がいないため就寝時間が不規則になり、結果寝坊することも多くなります。不安な人は、宿舍の友達に朝、ドアを叩いてもらうよう頼んでおくといいでしょう。

▼1日のスケジュール

●●●平日

● 7:30 起床

洗濯機をまわした後、朝食に前日の残り物を食べて洗濯物を干してから学校に行く準備をします。

● 8:20 部屋を出る

春日エリア以外で授業がある日は春日エリアで授業がある日に比べて 10 分ほど早いです。

● 11:30 昼食

学食で食べたり、早起きして作ったお弁当を食べたり、課題に追われて食べられなかったり…。

● 18:00 6限終了

ここからサークルに行くなり、買い物に行くなり、バイトに行くなり、各々の予定に合わせた行動になります。

● 24:00 就寝

●●●休日

● 8:00 起床

その日の予定や前日の就寝時間によって起きる時間はまちまちです。課題をしたり、サークルの活動に参加したりと、どんな休日にするかはあなた次第！

● 24:00 就寝

せめて休日くらいは早く眠るよう心がけています。

いかがでしたか？私がここで紹介したのは、ほんの一部にすぎません。ぜひ自分で宿舍生活を体験してみて、ここには書かれていない楽しさを見つけてみてくださいね！

アパート

大学生活では、はじめての環境、場所、専門的な学習など、今までになかったことで盛りだくさんです。そして、大学生の生活の根底にあって重要なことは暮らしの種類です。

最初で最も重要な選択（宿舎 or アパート）

大きく分けて、宿舎、アパート、自宅（左から順に通称は：宿舎民、アパ民、宅通）の3つになりますが、多くの場合は宿舎かアパートの選択になると思います。ここでは、アパ民向けに、メリット・デメリット、注意点と場所の情報を教えていきます。

▼メリット・デメリット

<メリット>

◆自由にシャワー・トイレ等を使える

アパ民は24時間いつでもシャワーやトイレを自由に使えます。レイアウトも自分の好きなようにできるので、自分だけの空間をデザインできます。

◆場所によっては娯楽施設

(TSUTAYA, WonderGoo, Bookoff など) が近い

メディアを創成したり、知識情報を集めたりと春日エリアの学生（以下、春日民）は日々、新しいコンテンツに飢えています。そんなあなたには、気軽に利用できる娯楽施設が必要だと思います。

◆部屋が宿舎より広めなのでスペースをより自由に使える。

広ければいろいろできますもんね。コストコパーティーとか、スマブラとかタコパとか、大人数で楽しくできちゃいます。(←重要)

◆あなたの財力で可能性は無限大

これまでの項でもそうでしたが、簡単にまとめるとこの一言に尽きます。これがアパ民の最高の利点です。ロフト付きだったりウォークインクローゼット付きだったり、あなたにあった部屋を選べます。

<デメリット>

◆電気代、ガス代、水道代が高い

一般的な価格ではありますが、いざ明細を見てみるとビックリするかもしれません…節電、節水は計画的かつ日常的にやりましょう。

◆大学から遠い

アパートは大学構内にはないので、必然的に遠くなります。遠いと言っても自転車があればどこにでも行けるのが筑波大学生なので、頑張りましょう。(運動にもなりますし)

◆宿舎民のコミュニティに入りづらい

近所に同じ学類の人がいないのはアパ民の使命…しかし、時間とともにこの問題は解決していくと思います。友達と遊びたいのなら自分から動くことを強くオススメします。

◆朝は早起きしないといけない

気軽に起こしてくれる人がいないのは大変ですね。筑波大学の1限は8:40から始まります。ふと目を覚ましたら9時すぎで1限に出席できないなんてこともよくあります(実体験)。健康的な生活を送るように気をつけなくてはけません。高度な自立スキルが必要です

▼まとめ

メリットとデメリットを比較して、どう思いましたか？
デメリットは自分から動く事で解決することが多いので、積極的に動くようにしましょう。
“春日民たるもの動け！！” ということでこの項は締めさせていただきます

▼アパ民の注意

さて、次は、アパート選びにあたっての注意点や、アパートでの生活で注意することを紹介していきたいと思います。

◆合格したなら速攻でアパートを探す！

推薦やACで合格した場合、余裕を持って優良物件を見つけられることでしょう。問題なのは、前期・後期で合格した方です。

大学合格後、アパートに住むことを早く決断しないとあまり良くない物件ばかり紹介されてしまいます。前期・後期合格の方は大勢いるので、優良物件の取り合いが始まります。いい物件は早めに押さえておくことをオススメしておきます。

◆お隣さんや上下の階の人の事も考えて

特に騒音。隣の部屋にはあなたのことを知らない人が住んでいます。近所迷惑にはならないように気をつけて下さい。パーティーはほどほどに

◆施錠確認入念に

空き巣はあなたの身近にいます。特に女性の方、気をつけて下さい。
2階だからって安心はしないこと。窓の施錠も忘れずに！

▼住む場所の選択

住む場所は今後の大学生活で、あなたのやる気を持続させるか否かに関わってくる重要なポイントになってきます。

最もオススメするのは春日1~3丁目です。この地区は春日エリアに近く、生活には困らないと思います。また、大学に近い＝宿舎に近い、なので、同じ学類の人と交流を持ちやすいかもしれません。

他の場所は、春日1~3丁目よりも本学に近かったり、大型スーパーに近かったりなどアドバンテージが高いことが多いですが、春日民の行動の起点はやっぱり春日エリアなので、離れすぎてしまうことが多いです。雨の日などは「あー登校めんどくさい…、今日は遅刻してもいいや」なんて気持ちになっちゃうこともあるので、キャンパスの近くに住むことは大切です。(学生の本分は勉強・研究です！これを忘れずに)

▼最後に一言

「こんな少ない情報量で何がわかるんだろう？」ってくらいここに書いてある情報は少ないです（笑） なんとも言いますが、アパ民のデメリットは自分から行動することで、無いに等しくなります。働かざるもの食うべからずということで、自分を律していきましょう！

以上、メ創の高倉でした。みなさんのご入学待ってます！

自宅通学

つくばで一人暮らしをせずに自宅から通っている人たちを通称宅通と言います。自宅がつくばのすぐそばにある人もいれば電車を使って1時間以上かけながら毎日登校する人もいます。人数はかなり少なく多苦痛という別名もあるくらい辛い面が多いです。もちろんメリットもありますけどね！！

▼メリット・デメリット

＜メリット＞

◆家事をやる必要がない

家庭にもよるとは思いますが、基本的に宅通は家事に時間を取られません。もちろん多少の手伝いはしますが全てを自分でやっているような人は限りなく0に等しいのではないのでしょうか？夜遅くに帰ってきて色々とめんどくさい時でもご飯やお風呂が準備されているのは一人暮らし勢に羨ましがられる宅通最大のメリットです。また毎日誰かしらいるので静かで寂しい夜を過ごすことがないのも宅通のいいところです。

◆地元との関わりが薄れにくい

自宅から通っていれば地元の友達と連絡も取りやすいですしご飯を食べに行ったり少し遊びに出かけたりと結構すぐに高校時代の友達に会いに行くことができます。

◆規則正しい生活ができる

つくばに住む人には夜遅くまで遊んだり夜通し課題をしたりする人が多いです。ですが宅通は前もってアパ民の人にいて準備しておかないと着替えがなく泊まれないことになるのでなかなかそのようなことはないです。きちっと夜寝て朝起きる生活がおくれます。また空きコマを有効に使う術を身につけられます。

＜デメリット＞

◆朝が早い

つくばに住んでいる人よりもはるかに早くに起きます。つくばに住んでいる人よりもはるかに早くに自分の遅刻を悟ります。TXは守谷行きが多くつくばまで行く電車の本数がかなり少ないです。地元駅で1分遅れてしまったが故に3本の守谷行き電車を見送り20分後につくば行き電車に乗る、といったことはあるあるです・・・。

◆つくばの人と気軽に遊べない

つくばに行くのに時間がかかるため集まりに呼ばれないことも多々ありますし呼ばれたところでいけないことも多々あります。終電の問題で早抜けすることも多いです。事前から夜遅くの集まりに誘われているときは先にアパ民の友達にお願いして泊めてもらう準備をしておきましょう。

◆部活に入りにくい

筑波大の部活には朝練があるものも夜中に練習があるものもあります。また筑波大生のほとんどが大学周辺に住んでいるため朝練も他大より早い時間からあります。部活に入っている人には圧倒的に一人暮らしをすすめます。

▼最後に一言

毎週末に自宅に帰るくらいの感じでつくばに住むのが私的には最高だと思います。またおそらく宅通は通学時間片道 1 時間半くらいが限度です。それ未満の通学時間の人はメリットとデメリットを考えながらより自分にあった方を選択してみてください。

7. サークル

▼どんなサークルがあるの？

筑波大学のサークルは、そのほとんどが

- ・文化系サークル連合会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>)
- ・体育会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>)
- ・芸術系サークル連合会 (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>)
- ・一般団体 ・公認学生組織

のいずれかに属しています。逆にいうと、このいずれかに属していない団体はちょっと活動内容が不透明なところもあるので気をつけましょう（すべてがそうとはいえないかもしれませんが…）。

どんなサークルがあるか、ですが、ちょっとありすぎてここには書ききれません…（´・ω・`）とにかく、なんでもできるのが筑波大学。運動にも芸術にも文学にも福祉にも、なんにでもチャレンジできます！

▼学業やバイトとの両立

サークルをやっていたら他のことってできないんじゃないの…？ と不安になっている皆さんも大丈夫、両立は可能です。

筆者もサークルもバイトもしていますが、単位は取っています。ただし、サークルには毎日のようにがちがちに活動しているところから、週 1 日のペースでゆるーく活動しているところまで様々です。バイトも同様。何を優先するのかをしっかり決めて、サークルも選びましょう。

両立できるかできないかは自分次第かもしれせん。大学生ですからね。

▼「部」と「サークル」

サークルを探していると、「〇〇部」というものとそうでないものがあることに気が付きます。

これはあくまでも筆者のイメージなのですが、部のつくものはわりとがちでやっているイメージ。そうでない団体はちょっとゆるめなイメージ。あくまでもイメージ。部がつかなくても結構ハードに活動している団体ももちろんあります。

ちなみに、医学〇〇部という団体が多く見受けられますが、これは医学群以外の学生も参加できます。新歓が豪華なので一度は行ってみるといいかも。

▼新歓について

春になると、多くのサークルが新入生歓迎会、略して新歓を行います。新入生にとってはタダ飯のチャンス！（笑）4 月の食費が恐ろしく安くなる、なんてことが普通に起こります。もちろん、自分の入りたいサークルの雰囲気を知る大事な機会です。ただし、新歓に便乗して怪しい団体から声がかかることもあります。自分の身は自分で守りましょう。

新歓の様子や参加団体は筑波大学新入生歓迎祭のページ (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~shinkan/>) から確認することができます。気になった人はチェックしてみてください。

8. アルバイト

▼アルバイト時期

この項目を見ているみなさんの大多数はきっと「バイトは大学生活に慣れてから…」と考えているのではないのでしょうか？ はっきり言います。「甘い」です。まだいい、テストが始まるから。サークルの合宿があるから。新学期の授業に慣れてから。どんどん先延ばしにしてしまった結果何もしない、なんてことになりかねません。また、夏休みに始める人も多いようですが、学生にとって一番の稼ぎ時である長期休暇を研修期間という時給が低い状態で迎えることも損をしているように思えます。

大学生活もバイトをしている、していないによって大きく様相を変えてきます。正直って、一年の春Cモジュールなんてものは、バイトをしていないと、暇で暇で仕方ありません。逆に、バイトをしていることで課題提出まで効率的に課題に取り組むことが身に着いたりします（土日にバイトがあるため「土日にまとめてやろう」などと言い訳できないので）。

また、大学生活に慣れるように、バイトも慣れてしまえばどうということはありません。むしろ楽しくなってくるときもあります。楽しいことをやってお金をもらえるなんて最高じゃないですか？

▼給料について

いかなる条件でバイトをしているかによって異なりますが、土、日6時間勤務でだいたい2〜3万というところが目安となるでしょうか。週5、6勤すれば万越えも夢ではないです。

しかし、大事なことを忘れないでください。優先すべきはお金ではなく、己の健康や、学業です。このことを忘れずみなさんも楽しいバイト生活を送ってもらいたいと思います。（とある先輩の感想です）

▼バイトの種類

◆飲食店

まかないを食べることができたりします。キッチン業務は時給800円〜900円ぐらいが相場。若干高めです。ホール業務はキッチンと違い接客業なので人とのコミュニケーション能力を求められます。キッチンより若干時給が低いところが多いです。割と競争率が高く、ホールで希望を出したのにキッチンしかあいておらず入れられるなんてことも。

◆塾講師・家庭教師

大学生が行う一般的なバイトの中ではトップクラスの時給を誇ります。しかしその実、報告日誌作成、授業準備等、時給が発生しない業務時間が多かったりするので他の一般的

なバイトとたいして差がなくなってしまうりもします。また営業形式上毎週決まった時間に拘束されるため、急に予定が入ったときなど対応力が低いのがネックです。

◆ショップ販売員

時給もそこそこ、服も汚れることはまずないです。まかないがないため働くたびに昼食代がかさむということがデメリットかもしれません。時給も飲食店と遜色ないところが多く割とお勧めのバイトです。

他にも、大学図書館や心理実験の被験者など、筑波大学ならではのバイトもあります。自分の興味で探してみるのも面白いですよ！

9. 筑波大学の一年間

四月

■宿舎入居

宿舎は春日、追越、一の矢の各地区ごとに入居が決まっています。入居日のイオンには臨時バスが出るほど。

■入学式・新入生歓迎祭

各学類やサークルで新歓祭が行われます。色々なイベントに参加すると友だちが増えるよ！

五月

■春季スポーツ・デー

春季と秋季の年2回行われる行事。有志参加で、様々な球技やミニゲーム、スポーツ写真コンテスト等も行われます。運営しているのはスポーツ・デー委員会です。

■やどかり祭

宿舎祭ともいいます。1年生が出店していることが多いお祭りです。これを通して恋の季節がやってくるとか来ないとか。まあ人によりけりですね。

六月

■春 AB モジュール期末試験

一年生最初の山場。春 AB モジュールに授業が集中しているのできついです。これを乗り越えると授業が比較的少ない春 C モジュールに入ります。友だちと協力して生き抜きましょう。

八月

■春 ABC モジュール期末試験

■夏季休業

十月

■宿舎入居

安全点検のため、毎年、全学規模で停電があります。もちろん宿舎も真っ暗です。

冷蔵庫…orz

十一月

■春季スポーツ・デー

通称「雙峰祭（そうほうさい）。3日間にわたって行われる、大規模なお祭り。筑波大の広大なキャンパス中で模擬店などが出店される。お店を出しているのはサークルだったりクラスだったりゼミだったり。

運営しているのは筑波大学学園祭実行委員会（通称は実委）の現役生やOBやOG。

■秋季スポーツ・デー

春季スポーツ・デーとほぼ同じイベントです。多少種目が変わります。

十二月

■春 AB モジュール期末試験

■冬季休業

二月

■秋 AB モジュール期末試験

■春季休業

三月

■卒業式

10. 学費・宿舍・奨学金

平成 28 年度の授業料・宿舍費・奨学金について簡単に説明します。

▼学費

入学科

授業料（第 1 期・第 2 期）

年間授業料合計

一年次には入学科 + 授業料で約 80 万前後の納入、二年次以降は年間約 50 万ずつの納入になります。ただし、条件がそろった場合、授業料の全額または一部免除及び入学科の全額・半額免除制度があります。今年度より必要書類提出の締め切りまでの期間が短くなったので、申し込みを考えている人は早めに書類を学生支援室に取りに行きましょう。

▼奨学金

毎年 4 月中旬に日本学生支援機構申し込み説明会が開かれます。その時に配布される資料に必要事項を記入し、大学に提出することで奨学金の申請ができます。

こちらも書類配布から締め切りまでの期間がとても短く、保護者や親類に記入してもらわなければならない箇所もあります。奨学金を申請しようと思っている人は早めに奨学金について詳しく調べ、書類を受け取ったらなるべく早く書類を完成させ、余裕を持って提出した方が良いでしょう。

日本学生支援機構の公式 Web ページ <http://www.jasso.go.jp/>

▼春日宿舍

寄宿料	8,000 円 / 月		
共益費	7,035 円 / 月	※基本使用料（寄宿料 + 共益費）	15,035 円 / 月
保証金	30,000 円		
年間合計	210,420 円		

宿舍ではガス代・水道代は無料ですが、別途電気代は発生します。しかし、いくら電気を酷使しようとも月に 1,000 円を超えることは滅多にないというほど安いです。

11. 筑波大学の施設

①一の矢宿舎

第二、第三エリアに通う学生が使うことの多い宿舎です。キャンパス内で最北端に位置するこのエリアは春日から最も離れた施設になりますが、遊びに行ったりするので訪れる機会は意外と多いです。

③第三エリア

国際総合学類、工学システム学類、情報科学類などが使用しているエリア。第二外国語の一部はここで授業が行われており、また同じ情報学群に属する情報科学類が主に使用しているため、比較的春日民も訪れることが多いです。

⑤大学会館

講堂や会議場などが配置された建物です。入学式などの式典や全学規模での説明会はここで行われます。

⑦追越・平砂エリア

主に医学エリアや体芸エリア、第一エリアに通う学生が使っている宿舎です。やどかり祭の開催地ともなります。一部の知識・メ創の学生もここに配置されています。

②第二エリア

日本語・日本文化学類、障害科学類、生物学類などが使用しているエリア。春日民が立ち入ることはそれほど多くありません。大変入り組んでいるので、たまに訪れた春日民が迷子になって発見されることが割とよくあります。

④第一エリア

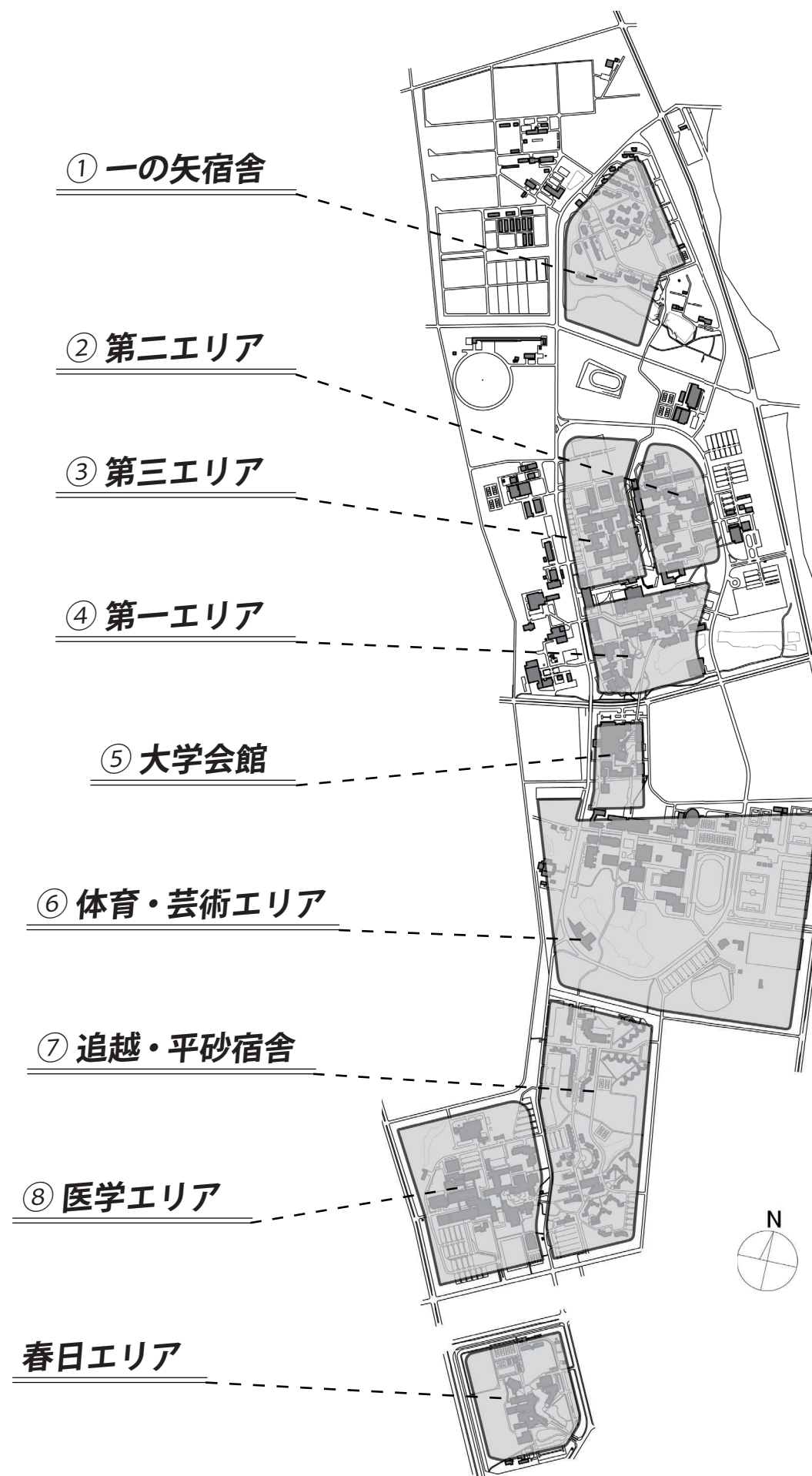
人文学類、地球学類、数学類などが使用しているエリア。建物が棟ごとに色分けされているので大変鮮やかです。講義が集中している時間帯は辺り一面が自転車で埋め尽くされます。中央図書館の手前があるので春日民も通過することが多いです。

⑥体育・芸術エリア

体育専門学群、芸術専門学群が主に使用しているエリア。さすが芸術、建物が白くて綺麗です。

⑧医学エリア

その名の通り医学類、看護学類、医療科学類の使用するエリア。大学病院もこの中にあります。他の学類の学生が中に入るには特別に許可を得る必要があり、謎に包まれたエリアです。



12. 春日エリアの施設

① 体育館

図情バレー部や図情バスケ部が使用しています。が、はっきりいってしまうと春日民はあんまり利用しないかも。

③ 講堂

ステージと客席の備えられた中規模ホールです。説明会のときや一部の集中講義ではこの施設を利用しますが、あまり利用頻度は高くありません。

⑤ ラウンジ

食堂のとなりにあるフリースペースです。ちょっとした集会や会議のときはここに集まります。パンやカップラーメンなどの自動販売機が置いてあり、24 時間開放されています。学生の強い味方です。

⑦ 春日食堂

豚丼やカレー、うどんの他に日替わり定食などがあります。価格は 300 ～ 500 円くらい。本学の食堂よりは混んでいないと思います。営業時間も他の食堂より短いのでいろんな意味でレアかも！

⑨ 情報メディアユニオン

大学院の研究室があるほか、様々なメディア関連機材が配置された「クリラボ」なる素敵な部屋があります。知識情報・図書館学類生は二年生、情報メディア創成学類生は一年生のうちからここで講義があります。ここで講演会や発表会が開かれることもあります。

② 春日宿舎

主に春日エリアの学生が使っている宿舎。詳しくは「生活体験記」参照。

④ 書籍部

教科書、雑誌や文房具などを販売しています。全て定価の 1 割引きです。実は春日の書籍部だけ漫画が置いてあるんです。もちろん 1 割引きです。

⑥ シンデレラ階段

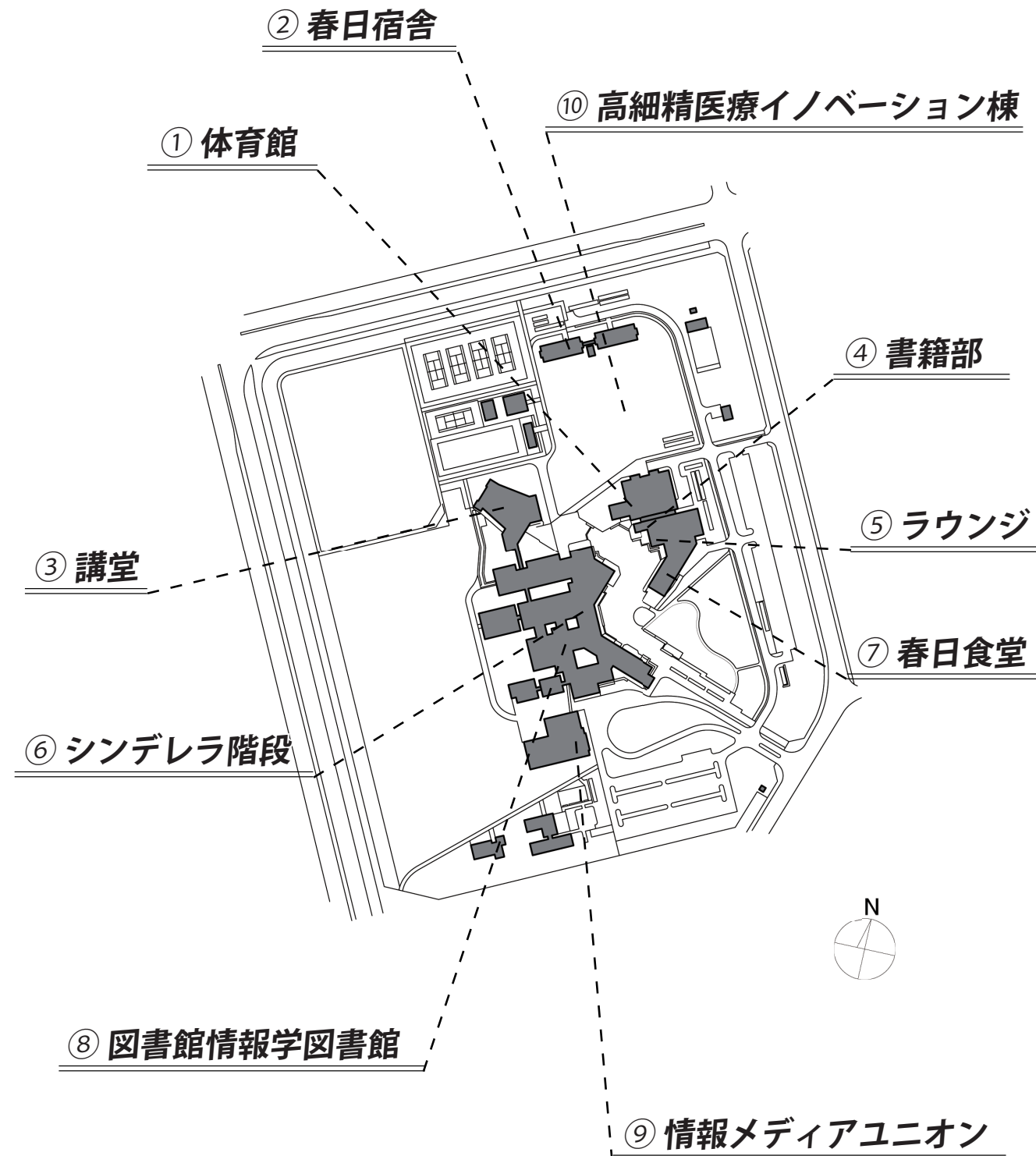
7B 講義棟のロビーに備えられた階段の通称です。あんまりシンデレラっぽくはない。よく学生の集合場所にも指定されます。

⑧ 図書館情報学図書館

「筑波大学附属図書館」のページを参照。

⑩ 高細精医療イノベーション棟

最近工事が終了し、その全貌が明らかになった建物。非常に綺麗な建物ですが、医学関係の施設であるため春日民にはあまり関係がないといわれています。



13. 筑波大学附属図書館

▼中央図書館

第一エリアと第二エリアの間にある、筑波大学内で一番大きな図書館です。5 階建て。図書だけでなく雑誌や映像資料も豊富です。スタディスペースもあり、授業と授業の合間に勉強する人も多です。基本図書館にはパソコンもあるので、パソコンを使わなければならないレポートも図書館にこもって仕上げることができます。ちなみに入り口にスターバックスがあり、お腹をすかせた学生たちをいつも誘惑しています。

▼体育・芸術図書館

体芸エリアにある図書館。春日の学生は体育の後にたまに利用したりする人もいます。他の図書館よりデザイン性のある造りをしている(気がする)ので、見学に行くと面白いと思います。

▼医学図書館

医学エリアにある図書館。残念ながら筆者は行ったことがありません。行ったことがある人に聞いたところ、勉強している人が多いので、モチベーションが上がるそう。他の図書館とは開いている時間が違ったりすることがあります。

▼図書館情報学図書館

春日エリア内にある図書館。通称 図情図書館。2 階建て。
図書館学に関する図書や雑誌を多く所蔵しています。小規模ですがこもりやすいです。

◆春日ラーニングコモンズ (KLC) ——— 情報資源経営主専攻 逸村研究室 榎本翔
図書館情報学図書館に併設されている学習支援スペースです。全学計算機や自由に使えるディスプレイ、ホワイトボードなどが配備されており、誰でも利用できます。
また、平日の午後には講義や履修に関する質問を受け付けるチューターが在室しています。

KLCWeb サイト：<http://klis.tsukuba.ac.jp/lc/>

▼大塚図書館

東京キャンパスにある図書館。学類生のうちはあまり利用することはないと思われます。

14. 用語集

▼あ行

- 天久保〔あまくぼ〕
地名。筑波大生が多く生活している。
- アパ民〔あばみん〕
アパートに住んでいる人。
- 1 学・2 学・3 学
〔いちがく・にがく・さんがく〕
それぞれ第 1 エリア、第 2 エリア、第 3 エリアの通称。学群・学類再編前のナンバー学群の名残。
- 一の矢〔いちのや〕
地名。または、一の矢宿舎。春日の人にはあまりなじみがない。団地のように広い。
猫が人懐こい。
- イノベーション棟〔いのべーしょんとう〕
春日エリアで最も高く、きれいな建物と
言われている。しかし、医学関係の施設であるため、春日民はあまり関係がない……
- エクストリーム移動
〔えくすとリーむいどう〕
春日と本学の間を 15 分(休み時間)で移動すること。遥かなる旅路……
- 追越〔おいこし〕
追越宿舎。知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の学生が入ることもある。

▼か行

- 学内バス〔がくないばす〕
正式名称 学内循環バス。ループ(ら行参照)を走る。筑波大生は年間 8,600 円で乗り放題。
時間通りに来ないことが多い。
- 春日〔かすが〕
1. つくば市内の地名。
2. 筑波大学筑波キャンパス春日エリアのこと。
3. 知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の総称。
- 春日食堂〔かすがしょくどう〕
春日エリア内にある食堂。通称かすしょく。味は日進月歩。ぜひお試しあれ。
- クラ代〔くらだい〕
クラス代表者会議。春日地区では、知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類が合同で春日地区クラス代表者会議として、春日エリア内のあれこれを改善するため、日々活動している。
- 掲示板〔けいじばん〕
授業やテストに関する情報が貼られる掲示板。重要な情報が掲示されるので、こまめにチェックしよう。
- 粉クリ〔こなくり〕
体芸エリア・2 学・3 学に存在するパン屋。美味。朝にはバイキングをやっている。

▼さ行

● 散歩〔さんぽ〕

入学式前に春日から本学の前まで見学をしに行くこと。新入生歓迎委員会の企画である。やるかどうかはその年の委員次第。宅通の人はこのことを知らずに入学してくることが多いので、入学前は Web 等で情報を得ておこう。

● 実習室〔じっしゅうしつ〕

機室、サテ室とも。パソコンが沢山置いてある教室。課題をやったり、娯楽のためにパソコンを使いにくたり、その使用目的はさまざま。

● 宿舎民〔しゅくしゃみん〕

宿舎に住んでいる人のこと。詳しくは生活体験記で！

● シンデレラ階段〔しんでれらかいだん〕

1 階と 2 階とをつなぐ、大きな階段。その形状からシンデレラ階段と名がついた。待ち合わせによく使われる。王子様は…心の中に。

● 全代会〔ぜんだいかい〕

全学学類・専門学群代表者会議の略称。通称 Z(ゼット)。生徒会の化け物のようなイメージ(あくまでもイメージ)。この人たちのお陰で筑波大生は充実した生活が送れている(はず)。

● 全学計算機〔ぜんがくけいさんき〕

筑波大学の学生が使えるパソコンのこと。パソコンを計算機という呼び方に慣れていない人は、最初は何のことだかさっぱりわからない。結構ハイスペックで色々なソフトも入っているので、授業以外に使ったりすることも。

● 雙峰祭〔そうほうさい〕

11 月頃に 3 日間にわたって行われる、筑波大学の学園祭。実行委員は学実委と呼ばれる。1 日では回りきれないほど規模が大きい。

▼た行

● 宅通〔たくつう〕

自宅から大学へ通ってくる人の通称。詳しくは生活体験記で。

● 知識〔ちしき〕

知識情報・図書館学類の略称。klis(けーりす)と呼ばれることも。

● Twitter〔ついったー〕

春日民の大事な情報ツール。ツイ廃、ふぁぼ、RT、TL、規制という言葉が常識となっていく日常。春日は筑波内でもツイッター普及率がすごい。先生方もやってらっしゃいます。

また、知識情報・図書館学類の非公式のアカウントもありますのでご参照ください。

● つくばっく〔ーー〕

帰省先からつくばに戻ってくること。

● TX〔ていーえっくす〕

つくばエクスプレスの通称。秋葉原まで最速 45 分。宅通の中で利用する人もいる。

● 図情図書館〔とじょうとしょかん〕

図書館情報学図書館の略称。同じく筑波大学として、中央図書館、医学図書館、体芸図書館などが存在する。勉強したり昼寝したり、使い方は人それぞれ。

▼な行

● 7A205〔ななえーにーまるご〕

春日エリア内で最も大きな教室。知識情報・図書館学類では 1 年生の間はここで授業を受けることが多い。

▼は行

● 平砂〔ひらすな〕

平砂宿舎の通称。グランドスラムと呼ばれる部屋は色々な意味で有名。

● ペデ〔ぺで〕

ペDESTリアンデッキの略称。筑波大学の中を縦にまっすぐ通る。自転車と歩行者が通る。本学(二つ下の項目参照)への行き来するときによく使う。

● ほけかん〔ーー〕

保健管理センターの略称。学生は基本的に無料で診察を受けられる。

● 本学〔ほんがく〕

第 1、2、3 エリア等の通称。春日エリアから自転車で約 15 分。1 年生だと授業だけでかなりの時間を過ごす。

▼ま行

● マジック〔まじっく〕

行事等で苦労を共にした男女がカップルになったりすること。「やど祭マジック」、「クラ代マジック」、「雙峰祭マジック」などがある。詳しくは入ってから先輩に聞くと良い。

● メ創〔めそう〕

情報メディア創成学類の略称。創成、mast(ますと)と呼ぶ人もいる。

▼や行

● やどかり祭〔やどかりさい〕

入学して初めての大きな行事。宿舎祭とも言う。主に 1 年生を中心に出店したり御輿を作ったりする。ミスコン、もとい「ゆかコン」なるものが開催される。

▼や行

● ラーニングコモンズ

〔らあにんぐこもんず〕
通称 LC。図情図書館の中に存在する。院や、学類の先輩方(チューター)が、課題の相談などにのってくれたりする。パソコンなども置いてある。

● ラウンジ〔らうんじ〕

春日食堂横にある 24 時間自由に使えるスペース。パンやカップラーメン等の販売機がある、学生の強い味方。

● ループ〔るうぷ〕

学内バスが通る道路のこと。けっして舗装は綺麗ではないが、ペデは坂道が多いので自転車だとこちらの道を好んで通る人が沢山いる。

雨の日は水が溜まりやすいので水没に要注意。

[illegible]

2016 年 8 月発行

Web 版のため省略

平賀 譲 先生 (情報メディア創成学類長)
長谷川 秀彦 先生 (知識情報・図書館学類長)

情報メディア創成学類の教職員の皆様
知識情報・図書館学類の教職員の皆様
図書館情報エリア支援室の皆様
春日地区クラス代表者会議
過去のかすがらいふ編集委員の皆様
その他、ご協力いただいたすべての皆様

